

《専門教育科目》

科目名	青年心理学	科目ナンバリング	YR-L23012
担当者氏名	松田 信樹	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	3 年 ・ II 期

《授業の概要》

青年期は人の一生にわたる成長・発達の大きな節目となる発達段階である。重要な意味を持つ青年期の発達の特徴を、身体的・社会的・心理的側面から概観する。これまでに提起されてきた青年心理に関する諸説にふれながら、学生自身を含めた青年の心の在り方を学ぶ。

《授業外学習》

参考図書として取り上げた図書をじっくり読み、青年心理の理解、そして自己理解を深めてもらいたい。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回配布するプリントを用いて授業を進める。

《学習状況・理解度の確認》

質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。提出されたレポートにコメントを付して返却する。

《参考図書》

『エピソードでつかむ青年心理学』 大野久（編著） ミネルヴァ書房 2010

《備考》

Adolescent Psychology 受講学生どうしのディスカッションを交えて学習する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 1-1こどもの発達過程について正しく理解する	青年期の身体的、社会的、心理的発達の特徴について理解できる
○ 1-2子どもの心身の状態を把握する力	青年期特有の心の問題について理解を深め、悩める青年に寄り添う姿勢を身につける
○ 1-3子どもと環境の関係を理解する力	青年の人間関係の特徴について理解することができる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	
レポート	20
発表・実技	
授業内課題	60
その他()	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	青年心理学への導入	青年の誕生そして青年心理学の誕生について、その歴史的経緯を学び、青年心理学への導入とする。	プリントを用いての振り返り	60分
2	青年期という時代	青年期の位置づけ生涯発達の流れの中での青年期の位置づけ、そして青年期の重要性について学ぶ。	プリントを用いての振り返り	60分
3	青年の体と心	青年期の身体発達の特徴を学び、身体発達が青年の心に与えるインパクトについて考える。	プリントを用いての振り返り	60分
4	青年の内面世界	青年が経験する多様な感情に焦点をあて、青年の内面世界について考える。	プリントを用いての振り返り	60分
5	アイデンティティの発達～その1	アイデンティティという概念が内包する意味を、さまざまな事例にふれながら学ぶ。	プリントを用いての振り返り	60分
6	アイデンティティの発達～その2	アイデンティティ概念の広がり、そして多様なアイデンティティの在り方について学ぶ。	プリントを用いての振り返り	60分
7	青年の恋愛～その1	青年の恋愛の特徴とされる「アイデンティティのための恋愛」について考える。	プリントを用いての振り返り	60分
8	青年の恋愛～その2	恋愛と親密性という主題について考える。	プリントを用いての振り返り	60分
9	青年の親子関係	青年期における親子関係の発達の变化を学ぶ。	プリントを用いての振り返り	60分
10	青年の友人関係	青年にとって友人という存在がいかなる意味を持つのかを考える。	プリントを用いての振り返り	60分
11	青年と学校	青年の発達にとって学校での学びがもつ意味を考える。	プリントを用いての振り返り	60分
12	青年と社会	青年と社会との結びつきを、職業選択や労働を通して考える。	プリントを用いての振り返り	60分
13	青年の心の問題～その1	青年の心の問題について、非行を中心に学ぶ。	プリントを用いての振り返り	60分
14	青年の心の問題～その2	青年の心の問題について、ひきこもりを中心に学ぶ。	プリントを用いての振り返り	60分
15	学習内容のまとめ	授業を通して学んだことを総括するために、レポートを作成する。	学習内容の総復習	120分

《専門教育科目》

科目名	教師・保育者論		科目ナンバリング	YY-L13027
担当者氏名	田井 敦子		担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 必修	開講年次・開講期
				3 年 ・ I 期

《授業の概要》

子どもを取り巻く様々な状況の変化に応じた保育のあり方や保育者の役割や専門性について理解するとともに、保育者としての使命感や倫理観について学び、幼稚園や保育所・施設等で保育を行う者としての自己の課題を明確にする。

《授業外学習》

授業で学んだことをテキストや配布資料で復習しておくこと。

《テキスト》

佐藤哲也（編著）『子どもの心によりそう保育者論改訂版』福村出版

《学習状況・理解度の確認》

・授業ごとに学びと課題を提出、返却し、学びの状況を確認する。

《参考図書》

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び各解説書

《備考》

・担当者は、幼稚園教諭として勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-1幼児教育の方法を身につける	保育に求められる今日的課題を踏まえ、子どもの保育と保護者支援を担う保育者の専門性について理解を深める。
○ 3-2社会資源を理解し活用できる力	保育者の制度的な位置付けや保育者の協働について理解する。
○ 3-1多職種との連携ができる力	保育者の専門性や役割、倫理について理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	70
小テスト	
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	20
その他()	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	本科目の目的と内容を理解する。	テキスト・資料の確認	45分
2	保育者とは	保育者とは何か、保育者の存在意義と教育的役割について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
3	理想の保育者像とは	こどもの主体的活動を支える、理想の保育者について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
4	保育者の職務内容	保育の一日と保育者の仕事について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
5	子ども理解と保育	子どもの内面や発達を理解する意味とその方法について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
6	保育の展開と実践的能力	「遊び」を通じた保育展開の方法について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
7	保育における協働	「個」と「集団」の捉え方や保育における協働について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
8	教材研究の必要性	子どもが遊びを通して豊かな経験をするには、教材研究が重要であることを学ぶ。指導案作成。	テキスト・資料の確認	45分
9	保育者の資質・能力	保育者として求められる資質・能力、保育者が育つ環境について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
10	保育者の専門性の向上	保育実践の振り返りや専門性向上のための研修のあり方について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
11	保育者間の連携、専門機関との連携	子ども、保護者、家庭のニーズと専門機関との連携について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
12	家庭や地域社会との連携	保護者支援のあり方や子育て家庭の置かれている現状の把握と支援の現状について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
13	カリキュラムに基づく保育の展開と自己評価	カリキュラムと保育実践との関連、省察・評価について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
14	これからの保育者に求められるもの	未来を見据えた保育者の役割や専門性の向上に向けての取り組みについて学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
15	テスト			60分

《専門教育科目》

科目名	こどもと数	科目ナンバリング	YY-L23038
担当者氏名	高野 敦子	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	3 年 ・ I 期

《授業の概要》

保育者は、子供が様々な算数・数学的な経験を体験できるような環境を意識してつくり、子供たちの生活の中で支援をする必要があります。そのためには、子どもたちの発達課程を理解するとともに、子供が様々な算数・数学的な経験を体験できるような遊びや生活の場面を作り出す力が必要となります。授業では、そのような力を身につけるための実践的な学びを目指します。

《授業外学習》

幼児教育の場での支援方法について具体的事例に基づいて考察してレポートを作成する

《テキスト》

テキストは使用しない 必要に応じてプリントを配布する

《学習状況・理解度の確認》

提出物はコメントを付して返却する 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける

《参考図書》

遠山啓「親と子で学ぶ算数入門」(SBクリエイティブ, 2014) 吉田明史他「保育者が見につけておきたい数学」(萌文書林, 2018)

《備考》

グループワークや実習を取り入れます。 ICT活用双方向型授業 (英語表記) Mathematics for Children

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-1子どもの発達を理解する力	数、量の種類と意味を知り、子供の発達段階に応じた考え方ができる
◎ 1-3子どもと環境の関係を理解する力	子どもが生活や遊びの中で、多様な算数・数学的体験をできるような環境作りや支援の方法を理解する。
○ 2-1幼児教育の方法を身につける	生活や遊びの中での子どもたちの数理的活動に気づき活動を深める工夫ができる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	10
授業内課題	60
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	授業概要	なぜ算数・数学を学ぶのか	科目による違いをまとめる	45分
2	算数・数学の内容	小中高における算数・数学の内容と関連	練習問題と活動の考察	60分
3	集合	集合について理解し、仲間の集まり、なかまはずれについての子どもを理解を促す働きかけを学ぶ。	練習問題と活動の考察	45分
4	分類	集合について理解し、仲間毎に集める活動について子どもの理解の支援方法を学ぶ。	練習問題と活動の考察	60分
5	量の理解	未知量と既知量、分離量と連続量、外延量と内包量、単位、比較について理解する。	練習問題と活動の考察	45分
6	比較	比較について理解し、子どもの1対1対応の理解の支援方法について学ぶ。	練習問題と活動の考察	45分
7	測る	子どもたちが身の回りの法則を理解するための環境づくり、「測る」体験の支援方法について学ぶ。	練習問題と活動の考察	60分
8	数の理解	位取り、内包量の性質を理解し、子どもの数の理解の発達について学ぶ。	練習問題と活動の考察	45分
9	数の理解	子どもの数の理解の発達段階に応じた支援方法を学ぶ。	練習問題と活動の考察	45分
10	数的理解に困難を抱える子どもの理解	数的理解に困難を抱える子どもたちについて理解しその支援方法を学ぶ。	練習問題と活動の考察	45分
11	図形の性質	図形教育の意味と子どもの図形に対する理解の過程を学ぶ。	練習問題と活動の考察	60分
12	現代数学の発達と子どもの理解の発達	幾何学の発展と子どもの幾何の理解を比較して学ぶ。	練習問題と活動の考察	45分
13	子供たちが生活や遊びの中で体験する数学	具体的な活動を通して数学をめぐる子どもたちとのかかわり方を考察する。	練習問題と活動の考察	45分
14	幼児教育者が身につけたい数学	幼児教育者としての数学とのかかわり方を考察する。	レポート作成	60分
15	学習のふりかえり	学習のふりかえり	授業内容の整理	45分

《専門教育科目》

科目名	こどもと生活	科目ナンバリング	YY-L22039
担当者氏名	福澤 惇也	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

こどもが具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技術を身に付けさせ、自立への基礎を養うことについて解説する

《授業外学習》

こどもを取り巻く環境について心配りをしてください。マスメディアを通してこどもに関する出来事に関心を持つようしておいてください。

《テキスト》

授業で使用する資料は毎回配布します

《学習状況・理解度の確認》

小テストについては丁寧に評価する。授業の到達目標に対しては、全体講評を行い、次年度目標に反映させる。

《参考図書》

高橋司『食で楽しむ年中行事12か月』あいり出版 松本峰雄『よくわかる！保育士エクササイズ11 子どもの文化演習ブック』ミネルヴァ書房

《備考》

授業内では、グループワークおよびプレゼンテーションを実施する。また、授業担当者は幼稚園教諭として幼稚園勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
1-3子どもと環境の関係を理解する力	現代社会における子どもの生活を理解する
2-2保育技術を身につける	生活に活かす児童文化財の活用の仕方を身につける
3-2社会資源を理解し活用できる力	身近な行事を生活に取り入れる
3-3多様な文化を理解する力	年中行事の意義、故事来歴を理解する

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	80
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	こどもの生活を巡る環境の変化	現代の乳幼児にふさわしい生活とは	環境の変化に心配りする	45分
2	家庭生活と躰 (1)	生活習慣の指導と親子関係	家庭での生活に目を向ける	45分
3	家庭生活と躰 (2)	愛着の形成と生活の様相	家庭での生活に目を向ける	45分
4	家庭生活と躰 (3)	居場所づくりと帰属意識	家庭での生活に目を向ける	45分
5	年中行事と生活 (1)	伝承行事と保育行事、祝日と記念日	年中行事に興味、関心を持つ	45分
6	年中行事と生活 (2)	現代の生活に活かすために	年中行事に興味、関心を持つ	45分
7	生活習慣の指導法	保育者や保護者が留意すべきこと	子どもとのかかわり方を考える	45分
8	遊びと生活 (1)	現代教育において遊びと生活が注目されている理由	遊びと生活に目を向ける	45分
9	遊びと生活 (2)	園における子どもの遊びと生活の実態	遊びと生活に目を向ける	45分
10	児童文化財と生活 (1)	児童文化への理解とパネルシアターの鑑賞	児童文化財に目を向ける	45分
11	児童文化財と生活 (2)	絵本の探し方と読み方	好きな絵本を見つけよう	45分
12	児童文化財と生活 (3)	活動の導入を考える	導入の意義を考える	45分
13	現代のこどもの生活の課題と展望 (1)	問題点や課題を探る	生活環境の課題について考える	45分
14	現代のこどもの生活の課題と展望 (2)	子どもを取り巻く環境の構成	生活環境の課題について考える	45分
15	現代のこどもの生活の課題と展望 (3)	子どもの生活に対する省察	生活環境の課題について考える	45分

《専門教育科目》

科目名	幼児理解	科目ナンバリング	YR-L22007
担当者氏名	松田 信樹	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

子どもの内面世界を理解し子どもの心に寄り添うための多様な方法について学ぶ。また子どもの内面を理解したうえで子どもの成長と保護者による子育てに対してどのような支援の仕方があり得るのかについても考えていく。

《授業外学習》

幼児教育や保育に関わる新聞報道などにも関心を持ち、子どもと子どもを取り巻く環境についての認識を深めてもらいたい。子どもを観察したり、子どもと関わる機会を作ったりすることで、子どもの内面に目を向けることを習慣化していこう。子どもを観察し、理解したことや感じたことを正しい日本語で記録することができるようになるために、日頃から語彙力の向上に努めること。

《テキスト》

『新しい保育講座③ 子ども理解と援助』 高嶋景子・砂上史子（編著） ミネルヴァ書房 2019

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業時に課す授業内課題の進行状況から学習状況と理解度を確認する。質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。

《参考図書》

『子ども理解と援助 ー子ども・親とのかかわりと相談・援助の実際ー』 名倉啓太郎（監修） 寺見陽子（編著） 保育出版社 2004

《備考》

Theories and Methods of Understanding Young Children 受講学生どうしのディスカッションを交えて学習する。「先生」と呼ばれる専門職を目指していることを心得て、授業に臨むこと。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 1-3子どもと環境の関係を理解する力	環境との関りを通して子どもの発達が進むことを理解することができる
○ 1-1子どもの発達を理解する力	保護者の思いに共感的な理解を示し、子どもの成長に関わる心理的事実に基づいて支援ができるようになること
○ 1-2子どもの心身の状態を把握する力	心理学の観点から、日々変化する子どもの心の動きについて理解することができる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	10
発表・実技	0
授業内課題	60
その他()	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	幼児理解の重要性	子どもの内面世界に目を向けて行動の意味を理解することがいかに重要かに気付く。	プリントを用いての振り返り	45分
2	子どもを理解するとは(1)	子どもの何気ない行動に隠された意味を探る。	プリントを用いての振り返り	45分
3	子どもを理解するとは(2)	子どもの行為の意味を、状況要因を考慮に入れて考える。	プリントを用いての振り返り	45分
4	子どもを取り巻く環境の理解(1)	子どもを取り巻く環境を重層的に捉える。	プリントを用いての振り返り	45分
5	子どもを取り巻く環境の理解(2)	子どもの意欲を刺激する環境について考える。	プリントを用いての振り返り	45分
6	子どもを発達の観点から理解する(1)	子どもを見つめる大人の発達観について考える。	プリントを用いての振り返り	45分
7	子どもを発達の観点から理解する(2)	関係性の発達から子どもの発達を把握する。	プリントを用いての振り返り	45分
8	保育者に必要なカウンセリングマインド(1)	子どもと関わる保育者の基本的姿勢について、カウンセリングマインドの観点から考える。	プリントを用いての振り返り	45分
9	保育者に必要なカウンセリングマインド(2)	子どもを共感的に理解することの意味を考察する。	プリントを用いての振り返り	45分
10	子どもを観察し記録に残す	保育における観察と記録の重要性について理解する。	プリントを用いての振り返り	45分
11	保育カンファレンス	子どもの行動の意味を、他者の視点からとらえ直す。	プリントを用いての振り返り	45分
12	個と集団の育ち	個性化と社会化の両立をいかに図るかにについて考察する。	プリントを用いての振り返り	45分
13	子どもの特別なニーズ(1)	特別なニーズのある子どもに寄り添った保育の在り方を考察する。	プリントを用いての振り返り	45分
14	子どもの特別なニーズ(2)	特別なニーズのある子どもを共同体で支援する方策を考える。	プリントを用いての振り返り	45分
15	保護者支援のありかた	保護者支援の実際を様々な事例から理解する。	学習内容の総復習	120分

《専門教育科目》

科目名	幼児理解	科目ナンバリング	YR-L22007
担当者氏名	松田 信樹	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

子どもの内面世界を理解し子どもの心に寄り添うための多様な方法について学ぶ。また子どもの内面を理解したうえで子どもの成長と保護者による子育てに対してどのような支援の仕方があり得るのかについても考えていく。

《授業外学習》

幼児教育や保育に関わる新聞報道などにも関心を持ち、子どもと子どもを取り巻く環境についての認識を深めてもらいたい。子どもを観察したり、子どもと関わる機会を作ったりすることで、子どもの内面に目を向けることを習慣化していこう。子どもを観察し、理解したことや感じたことを正しい日本語で記録することができるようになるために、日頃から語彙力の向上に努めること。

《テキスト》

『新しい保育講座③ 子ども理解と援助』 高嶋景子・砂上史子（編著） ミネルヴァ書房 2019

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業時に課す授業内課題の進行状況から学習状況と理解度を確認する。質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。

《参考図書》

『子ども理解と援助 ー子ども・親とのかかわりと相談・援助の実際ー』 名倉啓太郎（監修） 寺見陽子（編著） 保育出版社 2004

《備考》

Theories and Methods of Understanding Young Children 受講学生どうしのディスカッションを交えて学習する。「先生」と呼ばれる専門職を目指していることを心得て、授業に臨むこと。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-3子どもと環境の関係を理解する力	環境との関りを通して子どもの発進が進むことを理解することができる
○	1-1子どもの発進を理解する力	保護者の思いに共感的な理解を示し、子どもの成長に関わる心理的事実に基づいて支援ができるようになること
○	1-2子どもの心身の状態を把握する力	心理学の観点から、日々変化する子どもの心の動きについて理解することができる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	10
発表・実技	0
授業内課題	60
その他()	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	幼児理解の重要性	子どもの内面世界に目を向けて行動の意味を理解することがいかに重要かに気付く。	プリントを用いての振り返り	45分
2	子どもを理解するとは(1)	子どもの何気ない行動に隠された意味を探る。	プリントを用いての振り返り	45分
3	子どもを理解するとは(2)	子どもの行為の意味を、状況要因を考慮に入れて考える。	プリントを用いての振り返り	45分
4	子どもを取り巻く環境の理解(1)	子どもを取り巻く環境を重層的に捉える。	プリントを用いての振り返り	45分
5	子どもを取り巻く環境の理解(2)	子どもの意欲を刺激する環境について考える。	プリントを用いての振り返り	45分
6	子どもを発達の観点から理解する(1)	子どもを見つめる大人の発達観について考える。	プリントを用いての振り返り	45分
7	子どもを発達の観点から理解する(2)	関係性の発達から子どもの発達を把握する。	プリントを用いての振り返り	45分
8	保育者に必要なカウンセリングマインド(1)	子どもと関わる保育者の基本的姿勢について、カウンセリングマインドの観点から考える。	プリントを用いての振り返り	45分
9	保育者に必要なカウンセリングマインド(2)	子どもを共感的に理解することの意味を考察する。	プリントを用いての振り返り	45分
10	子どもを観察し記録に残す	保育における観察と記録の重要性について理解する。	プリントを用いての振り返り	45分
11	保育カンファレンス	子どもの行動の意味を、他者の視点からとらえ直す。	プリントを用いての振り返り	45分
12	個と集団の育ち	個性化と社会化の両立をいかに図るかにについて考察する。	プリントを用いての振り返り	45分
13	子どもの特別なニーズ(1)	特別なニーズのある子どもに寄り添った保育の在り方を考察する。	プリントを用いての振り返り	45分
14	子どもの特別なニーズ(2)	特別なニーズのある子どもを共同体で支援する方策を考える。	プリントを用いての振り返り	45分
15	保護者支援のありかた	保護者支援の実際を様々な事例から理解する。	学習内容の総復習	120分

《専門教育科目》

科目名	幼児のための福祉教育 I		科目ナンバリング	YR-L23018
担当者氏名	田邊 哲雄・松田 信樹		担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選択
			開講年次・開講期	3 年 ・ I 期

《授業の概要》

少子高齢社会において、福祉教育は、「共に生きる社会」と「自立」とは何かを理解し、支え合いを実践する心を養うための教育である。「障害」を「生活の困難」という理解をもとに、友愛的共感を育むことがその目的である。先人の活動と現代の実態から共生社会の実現を考える。また幼児が福祉を理解するために感性を活用する理論を理解する。毎回の授業前半で基礎知識の講義を行い、後半は各自で調べ学習に取り組む。毎回調べた内容を記載した振り返りレポートの提出を求める。

《授業外学習》

講義のテーマに関する絵本やその他の視覚教材をWeb. 等で検索してみる。

《テキスト》

適宜、資料を配布する。

《学習状況・理解度の確認》

講義内で配布するプリントへの記入内容、グループワーク、プレゼンテーションの内容から学習状況、理解度を確認する。

《参考図書》

講義の中で、適宜、示す。

《備考》

ICT活用「オンデマンド型」「同時双方向型」で講義を実施する場合がある。グループワーク、プレゼンテーション等を実施する。担当者は幼稚園、児童養護施設、障害者支援施設、教育委員会等において地域歴のある中級経験者（幼稚園教諭専修、保育士、社会福祉士）で

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-3子どもと環境の関係を理解する力	感性による福祉教育の理論と実践の理解
○	2-1幼児教育の方法を身につける	インクルーシブ教育の意義を理解する

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	50
発表・実技	10
授業内課題	40
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 「ふ・く・し」とは	私たちの生活の身近にある福祉について理解を深める	福祉についてまとめる	45分
2	支え合う社会	「私のつながりマップ」を作成し、繋がりを実感する	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
3	多様性とインクルーシブ	多様性のインクルーシブ保育について基礎的理解を深める	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
4	特性の理解① 肢体不自由・聴覚障害	肢体不自由・聴覚障害について基礎的理解を深める	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
5	特性の理解② 知的障害・発達障害	知的障害・発達障害について基礎的理解を深める	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
6	特性の理解③ 精神障害、視覚障害	精神障害・視覚障害について基礎的理解を深める	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
7	高齢者理解① お年寄り・認知症	お年寄り・認知症について基礎的理解を深める	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
8	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインについて基礎的な理解を図る	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
9	子どもの権利	子どもの権利について基礎的な理解を図る	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
10	福祉と防災①	福祉と防災について基礎的な理解を図る	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
11	福祉と防災②	自然災害等で被災した保育者からの体験談を聴き、理解を深める	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
12	グループワーク①	グループごとにテーマを決め、調べ学習を行う	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
13	グループワーク②	グループごとにテーマを決め、調べ学習を行う	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
14	発表① 前半チーム発表	グループごとに調べた内容を発表する	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
15	発表② 後半チーム発表	グループごとに調べた内容を発表する	15回の講義内容を全般的に見つ	45分

《専門教育科目》

科目名	教育相談	科目ナンバリング	YY-L23034
担当者氏名	藤野 正和	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 必修
		開講年次・開講期	3 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育相談は、園生活・学校生活において子ども及び保護者と接する専門職としての不可欠な業務である。そのため、この授業では教育相談が園・学校における基盤的な機能であることを踏まえて、子どもの発達状況に即して、個々の心理的特性や教育的課題等を適切に捉え、子ども及び保護者を支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）について理解を深めることを目的とする。

《テキスト》

『子どもの理解と保育・教育相談 第2版』小田豊・秋田喜代美編 みらい 必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

『幼稚園教育要領』文部科学省 『保育所保育指針』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-4保護者の心情を理解し支援できる	児童の不適応や問題行動、保護者からの子育ての悩みや不安に対応し、助言や支援を行う技法が修得する。
○ 3-1多職種との連携ができる力	園内体制の整備や他職種との連携の意義や必要性を説明できる。
○ 3-4地域の子育て支援に貢献する力	保育・教育現場における相談ニーズ、カウンセリング的アプローチの技法やコンサルテーションの必要性を説明できる。

《授業外学習》

保育現場における様々な問題に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力すること。また、ボランティア等を通して、子どもと接する機会を積極的に作り、子どもとのかかわる体験を増やすこと。

《学習状況・理解度の確認》

オフィスアワーや講義の前後を活用して質問を受ける。小テスト等で学習状況・理解度の確認を行う。

《備考》

担当者は臨床心理士・公認心理師として実務経験者である。グループワークを用いた授業、ICTを活用した双方向型授業を実施している。科目名の英語表記：School Counseling

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	15
レポート	70
発表・実技	0
授業内課題	15
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業ガイダンス(授業内容および進め方)・具体的な事例紹介	事前：シラバスの通読 復習：資料の	60分
2	保育現場の相談ニーズとカウンセリングマインド	保育・教育相談に応じる姿勢や考え方について学ぶ	事前：資料の通読 復習：資料の	60分
3	子どもの発達理解と相談・支援	乳幼児の発達過程から子どもの育ちの特徴を学ぶ	事前：資料の通読 復習：資料の	60分
4	保護者への対応-子育て支援の視点から	保育者と保護者がともに子育てをする関係をめざすうえで、保育者に求められる対応の基本について学ぶ	事前：資料の通読 復習：資料の	60分
5	発達障害や気になる子どもの特性理解と基本的な対応	発達障害や気になる子どもの特徴について背景要因と合わせて考えるとともに、その基本的な対応を学ぶ	事前：資料の通読 復習：資料の	60分
6	障害や疾患を抱える子どもの保護者へのかかわり	障害や疾患を抱える子どもの保護者に関する基本的な理解とその対応を学ぶ	事前：資料の通読 復習：資料の	60分
7	発達理論とカウンセリング的アプローチ	子どもを理解するうえで必要な心理発達の理論と幼児期の対人関係の発達について学ぶ	事前：資料の通読 復習：資料の	60分
8	確認テストの実施と解説	確認テストを実施して、回答内容の解説を行う	事前：資料の通読 復習：資料の	60分
9	保育場面でのカウンセリング技法の活用	保育者がカウンセリングマインドの考え方をもってかかわるために必要とされる基本的な知識や技法について学ぶ	事前：資料の通読 復習：資料の	60分
10	園・地域における専門家との連携による相談・支援	保育場面におけるコンサルテーションや地域における専門関係機関などの援助資源との連携、その際の基本姿勢や留意点を学ぶ	事前：資料の通読 復習：資料の	60分
11	保育者の専門性と相談活動	保育・教育相談と心理の専門家が行うカウンセリングとの違いや、相談時の倫理、地域との連携のあり方について学ぶ	事前：資料の通読 復習：資料の	60分
12	事例検討①	事例を通して子ども・保護者に対する支援方法を学ぶ	事前：資料の通読 復習：資料の	60分
13	事例検討②	事例を通して子ども・保護者に対する支援方法を学ぶ	事前：資料の通読 復習：資料の	60分
14	事例検討③	事例を通して子ども・保護者に対する支援方法を学ぶ	事前：資料の通読 復習：資料の	60分
15	学習の総括	本授業の内容を整理するとともに、学びの総括を行う	事前：資料の通読 復習：資料の	60分

《専門教育科目》

科目名	教育・保育の課程と評価			科目ナンバリング	YY-L12001
担当者氏名	澤田 真弓			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 必修	開講年次・開講期 2 年 ・ I 期

《授業の概要》

教育・保育課程の意義と役割、カリキュラム・マネジメントの意義について学習する。カリキュラムの実践的な編成能力を養うため、各種指導計画等を検討する。

《授業外学習》

テキストの該当箇所および事前配布資料は熟読しておくこと。授業内容を丹念に振り返り、整理しておくこと

《テキスト》

岩崎淳子他『教育課程・保育の計画と評価』萌文書林

《学習状況・理解度の確認》

提出物にはコメントを付して返却する。分からないことは随時質問を受け付ける。

《参考図書》

随時紹介する

《備考》

担当者は保育士、幼稚園教諭として保育園、幼稚園勤務歴のある実務経験者。保育記録や指導計画の作成時にはグループワークを行う。
Theory of Curriculum and Evaluation in Child Care and Education

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-1幼児教育の方法を身につける	保育・幼児教育におけるカリキュラムの意義と役割が理解できる 教育・保育課程編成の原理と方法を理解できる
○ 1-1子どもの発達を理解する力	年齢や集団に応じた指導計画が作成できる
○ 1-3子どもと環境の関係を理解する力	各園や施設の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義が理解できる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	80
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	カリキュラムの基礎理論	教育活動におけるカリキュラムの意義と役割について学ぶ。	授業内容の振り返り	45分
2	幼稚園教育要領、こども園教育・保育要領について	幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領の特徴について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
3	保育所保育指針、こども園教育・保育要領について	保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の特徴について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
4	教育課程・保育課程の意義と役割	教育課程・保育課程が持つ意味とその役割について学ぶ。それぞれの編成方法について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
5	指導計画の意義	指導計画が持つ意味について学ぶ。各種指導計画の編成方法について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
6	指導計画の種類と役割	長期指導計画、短期指導計画の特徴と実践上の留意点について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
7	保育形態と保育方法	様々な保育形態について解説し、それぞれの特徴をいかした保育方法について紹介する。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
8	保育の評価	保育評価の視点、評価の実践的な実施方法について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
9	保育の記録	保育記録の意義と役割、作成方法について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
10	長期指導計画の作成	指導計画作成の手順と留意点について実践的に学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	90分
11	作成した長期指導計画の具体的検討	作成された指導計画の検討を通して、活動計画立案の実践力を身につける。	配布資料、授業内容の振り返り	90分
12	短期指導計画の作成	指導計画作成の手順と留意点について実践的に学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	90分
13	作成した短期指導計画の具体的検討	作成された指導計画の検討を通して、活動計画立案の実践力を身につける。	配布資料、授業内容の振り返り	90分
14	カリキュラム・マネジメントの意義	カリキュラム・マネジメントが持つ意味、実際にカリキュラム・マネジメントを実施する際の留意点について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
15	カリキュラム・マネジメントと保育カンファレンス	PDCAサイクルをいかした実践の省察や、研修、研究保育等の保育力向上のための取り組みについて学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分

《専門教育科目》

科目名	子育て支援地域活動の展開			科目ナンバリング	YR-S23001
担当者氏名	澤田 真弓・田井 敦子			担当形態	共担
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選択	開講年次・開講期
					3 年 ・ I 期

《授業の概要》

地域子育て支援活動での実践を中心に経験を深め、実践的知識や技術につながる素地を培うことを目的とします。授業では保護者支援の意味や方法、子ども理解の方法、地域資源の活用や地域連携について学び、子育て支援活動での実践と併せて、地域や保護者のニーズに応じた子育て支援のあり方を理解します。

《授業外学習》

・子育て支援に関する社会的現状を、様々な情報を元に理解しておくこと。
 ・子育て支援活動に参加する際は、子育て支援に関わる者としての自覚や使命感をもって臨むこと。

《テキスト》

適宜、資料を配布する。

《学習状況・理解度の確認》

・授業や子育て支援活動の参加後に提出された小レポートは、コメントを添えて返却し、学びの状況を確認する。 ・グループ単位での活動を主とするため、メンバーとの協動的な取り組みを評価する。

《参考図書》

《備考》

担当者は、保育士・幼稚園教諭として勤務経験のある実務経験者である。実践活動に参加し、グループワーク、実習を行う。 Parenting Support (advanced practice)

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 3-4地域の子育て支援に貢献する力	地域子育て支援活動の観察や環境構成などの実践を通して、子育て支援の実践力を身につける。
○ 1-3子どもと環境の関係を理解する力	地域子育て支援の実践力の基礎となる様々な課題や地域の子育て支援拠点の取り組みについて理解する。
○ 2-4保護者の心情を理解し支援できる	個々の保護者への個別対応を経験し、保護者のニーズを踏まえた子育て支援について理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	40
授業内課題	30
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の内容と地域子育て支援活動への参加の方法を理解する	授業内容の復習	45分
2	子育て支援活動と子ども理解	子ども理解の意味と方法について学ぶ	配布資料の予習・復習	45分
3	子育て支援活動と保護者理解	保護者支援の意味と方法について学ぶ	配布資料の予習・復習	45分
4	子育て支援活動と地域連携	地域資源の活用や地域連携について学ぶ	配布資料の予習・復習	45分
5	実践演習①	子育て支援活動での実践の準備を行う	実践演習の振り返り	45分
6	実践演習②	子育て支援活動に参加し、活動の実際を学ぶ	実践演習の振り返り	45分
7	実践演習③	子育て支援活動での実践の準備を行う	実践演習の振り返り	45分
8	実践演習④	子育て支援活動に参加し、活動の実際を学ぶ	実践演習の振り返り	45分
9	実践演習⑤	子育て支援活動での実践の準備を行う	実践演習の振り返り	45分
10	実践演習⑥	子育て支援活動に参加し、活動の実際を学ぶ	実践演習の振り返り	45分
11	実践演習⑦	子育て支援活動での実践の準備を行う	実践演習の振り返り	45分
12	実践演習⑧	子育て支援活動に参加し、活動の実際を学ぶ	実践演習の振り返り	45分
13	実践演習⑨	子育て支援活動での実践の準備を行う	実践演習の振り返り	45分
14	実践演習⑩	子育て支援活動に参加し、活動の実際を学ぶ	実践演習の振り返り	45分
15	まとめ	授業のまとめと振り返りを行う	レポート作成	120分

《専門教育科目》

科目名	教育方法論	科目ナンバリング	YY-L23033
担当者氏名	澤田 真弓	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	3 年 ・ I 期

《授業の概要》

幼児教育・保育現場で実践されている指導法の在り方について幼児理解の観点から解説する。情報機器を活用した効果的な教材作成と幼児の体験との関連について解説する。

《授業外学習》

資料等を配布された場合は熟読しておくこと。授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること。

《テキスト》

適宜資料を配布する。

《学習状況・理解度の確認》

分からないことは随時質問を受け付ける。

《参考図書》

文部科学省『幼稚園教育要領』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 豊田和子編『実践を創造する幼児教育の方法』みらい

《備考》

担当者は保育士、幼稚園教諭として保育園および幼稚園勤務歴のある実務経験者。 Method of Education

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-1幼児教育の方法を身につける	幼児教育・保育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技術を身につける。
◎ 2-1幼児教育の方法を身につける	育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解する。
○ 2-4保護者の心情を理解し支援できる	保護者支援の方法を知る
○ 3-2社会資源を理解し活用できる力	様々な教材を活用した教育・保育方法を知る

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	80
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	子どもの主体性への着目	日本における幼児教育思想の変遷の中で、子どもの主体性が着目された背景と教育方法の変化について学ぶ。	授業内容の振り返り	45分
2	児童中心主義の教育	日本において児童中心主義の教育が受容される過程と代表的な教育者の思想について学ぶ	授業内容の振り返り	45分
3	教育・保育活動の構成要素	保育者、子ども、教材を軸とした活動の構成要素について学ぶ	授業内容の振り返り	45分
4	子どもの主体性と教師の意図	子どもの主体性と教師の意図がともに発揮される活動設定の方法について学ぶ	授業内容の振り返り	45分
5	子ども理解と援助	子ども理解の観点から、教育活動を展開する上での適切な援助の方法を学ぶ	授業内容の振り返り	45分
6	環境の設定とその再構成	教育活動を豊かに展開するための環境設定と、その環境を再構成することの意義を学ぶ	授業内容の振り返り	45分
7	幼児教育における直接体験	幼児期における直接体験の意義と必要性について学ぶ	授業内容の振り返り	45分
8	様々な素材を活用した教材作り	室内活動に向け、身近な素材を用いた教材の作成例と作成方法を学ぶ	授業内容の振り返り	60分
9	様々な素材を活用した教材作り	戸外活動に向け、身近な素材を用いた教材の作成例と作成方法を学ぶ	授業内容の振り返り	60分
10	幼児教育における情報機器の活用	幼児教育における情報機器の活用例を知るとともに、今後に期待される活用方法を学ぶ	授業内容の振り返り	90分
11	多様な教育形態における教材の活用	教育形態の種類と特徴をおさえ、場に応じた教材の活用方法について学ぶ	授業内容の振り返り	90分
12	連続性を踏まえた教育・保育	乳児期から幼児期への連続した教育・保育について、その方法と保育者の援助を中心に学ぶ	授業内容の振り返り	45分
13	連続性を踏まえた教育・保育	幼児教育・保育と小学校の連携・接続について学ぶ	授業内容の振り返り	45分
14	自己評価とカンファレンス	教育・保育の質向上を目指した自己評価とカンファレンスについて、その観点と方法について学ぶ	授業内容の振り返り	45分
15	PDCAサイクルを活かしたカリキュラムマネジメント	教育・保育の質を向上させるカリキュラムマネジメントの意義と方法について学ぶ	授業内容・全体の振り返り	60分

《専門教育科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	YY-L22031
担当者氏名	松田 信樹	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

人は生まれてから実にたくさんを身につけて発達していく。それを可能にするのが広い意味での教育である。人の人としての発達を支える教育という営みについて、心理学の観点から考える。

《授業外学習》

参考図書として挙げた文献を読むなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。毎回の授業で配布するプリントとテキストの該当箇所を振り返り、授業で扱った重要語句の意味について理解すること。

《テキスト》

『育ちと学びの心理学』 松田信樹（著）あいり出版 2018
（こどもの心理学 I で使用するテキスト同著）

《学習状況・理解度の確認》

質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。

《参考図書》

『やさしい教育心理学[第3版]』 鎌原雅彦・竹綱誠一郎(著) 有斐閣 2012

《備考》

Educational Psychology 体験学習（心理学実験）を行う

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-3子どもと環境の関係を理解する力	子どもの発達が環境との関わりの中で進むことを理解することができる
○	1-1子どもの発達を理解する力	子どもの発達に関わる教育心理学の基礎的事項を理解すること
○	1-2子どもの心身の状態を把握する力	子どもの心の発達の流れを理解したうえで、子どもの心の動きを受け止める態度を身につける

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	20
レポート	
発表・実技	
授業内課題	20
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育心理学への導入	教育心理学では何を学ぶのか、そして幼稚園教諭を目指す者が教育心理学を学ぶ意義について説明する。	教科書とプリントを用いて復習	60分
2	学習の心理学～その1	学習を定義づけたうえで、学習を成立させるメカニズムについて学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60分
3	学習の心理学～その2	子どもを褒める、そして子どもを叱るということについて、学習の心理学の視点から考える。	教科書とプリントを用いて復習	60分
4	学習の心理学～その3	認知の変化としての学習、感覚運動学習について学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60分
5	学習への動機づけ～その1	動機づけについて、内発的動機づけをキーワードにして学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60分
6	学習への動機づけ～その2	学習意欲を高める、あるいは逆に低下させてしまう諸条件について学び、学習意欲を高める方策を探る。	教科書とプリントを用いて復習	60分
7	記憶の心理学～その1	忘却とそのメカニズム、短期記憶と長期記憶について記憶に関する実験を交えながら学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60分
8	中間試験の実施と解説	学習、動機づけ、記憶について学んだことの習熟度を確認するために中間試験を実施する。	教科書とプリントを用いて復習	60分
9	記憶の心理学～その2	効果的な記銘の仕方と子ども時代の記憶の発達について学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60分
10	学習の方法と評価	学習指導の諸形態と学習評価のあり方について学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60分
11	学級集団の理解～その1	教師と児童・生徒との関係について学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60分
12	学級集団の理解～その2	学級内の人間関係について学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60分
13	社会的状況と学習	社会的状況が学習活動に与える影響について学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60分
14	障がいをかかえる子どもの発達と学習	発達障がいをはじめとする障がいをもつ子どもたちの発達と学習の過程について学ぶ。	教科書とプリントを用いて復習	60分
15	学期末試験の実施と解説	記憶、学習方法と評価、学級集団内の人間関係、発達障がいについて学んだことの習熟度を確認するために学期末試験を実施する。	学習内容の総復習	120分

《専門教育科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	YY-L23032
担当者氏名	古田 薫	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、重要語句・概念についての理解を深め、教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得する。今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを深める。

《授業外学習》

- ・授業の前までに教科書の当該箇所を目を通しておくこと。
- ・配布資料は順番に整理し、ファイルに保存しておくこと。
- ・授業の要点や重要語句を1～2ページ程度でまとめたノートを作成すること。
- ・授業でわからなかった点は調べたり、次の授業時に質問すること。

《テキスト》

古田薫、山下見一（編著）『よくわかる！教職エクササイズ⑦ 法規で学ぶ教育制度』ミネルヴァ書房 中坪史典他（編）『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房

《学習状況・理解度の確認》

授業後に提出するリアクションペーパーと単元（テーマ）ごとの確認小テストにより講義内容を適切に理解しているかどうか確認する。

《参考図書》

2020年『幼稚園教育要領』

《備考》

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。
	教育基本法や学校教育法など重要な法律の概要を理解し、要点を説明できる。
	教育行政の仕組みや学校の制度や組織について理解している。
	幼稚園をはじめとする学校運営について理解している
	今日の教育の課題と教員の職務を理解し、自分自身の考えを述べることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	50
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	10
授業内課題	0
その他()	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 教育行政と教育制度	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。・教育行政、教育制度の基礎的な事項や用語について理解を深める。・就学前教育機関の役割と理解する。	まとめノートの作成	45分
2	就学前教育制度と行政	・就学前教育の歴史を振り返り、現在の制度に発展してきた背景を理解する。・就学前教育行政の在り方を理解する。	まとめノートの作成	45分
3	法体系と保育・教育関係法規の概要	・法規の体系と、保育制度・教育制度の法的・制度的枠組みを理解する。・主な保育・教育関係法規の概要を知る。	まとめノートの作成	45分
4	憲法教育基本法制：教育基本法と子ども基本法①	・教育基本法改正の背景とポイントを理解する。・教育基本法の意義と内容を理解する。	まとめノートの作成	45分
5	憲法教育基本法制：教育基本法と子ども基本法②	・教育基本法の意義と内容を理解する。・子ども基本法成立の背景とその内容を理解する。	まとめノートの作成	45分
6	保育・教育行政の仕組み：文部科学省と教育委員会、地方自治体、子ども家庭庁①	・文部科学省と教育委員会の関係と役割分担を理解する。・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響を理解する。・教育委員会制度の成立と発展の歴史を理解する。	まとめノートの作成	45分
7	保育・教育行政の仕組み：文部科学省と教育委員会、地方自治体、子ども家庭庁②	・教育委員会制度の概要と意義を理解する。・子ども家庭庁設置の背景とその意義を理解する。・行政機関の役割分担と連携について理解する。	まとめノートの作成	45分
8	学校制度：学校に関する法規	・学校教育の目的・目標を知る。	まとめノートの作成	45分
9	学校の組織と経営① 幼稚園の教職員と職務	・幼稚園教員に求められる資質を理解する。・教職員の資格・身分、職務に関する法令を理解する。	まとめノートの作成	45分
10	幼稚園の組織と経営② 学校経営と学校評価	・幼稚園の学級編成と教育体制について理解する。・教育の質の向上のための方策について理解する。	まとめノートの作成	45分
11	幼稚園の組織と経営③ 保健管理と安全管理	・幼稚園における保健管理、安全管理に関する制度を知る。・保健管理、安全管理における幼稚園教諭の役割を理解する。	まとめノートの作成	45分
12	幼稚園の組織と経営④ 教育課程と保幼小連携	・幼稚園教育要領について知る。・幼保小・家庭との連携について理解する。	まとめノートの作成	45分
13	就学前教育と福祉	・子どもの福祉、権利の視点から教育を考査する。	まとめノートの作成	45分
14	就学前教育と子育て支援	・子ども・子育て支援制度の概要を理解し、就学前教育との関連を考える。	まとめノートの作成	45分
15	学習のまとめと振り返り 21世紀の教育に向けて	・外国の就学前教育の動向を知り、教育の在り方を考察する。・これまでに学んだことから日本の就学前教育制度の課題と今後を考察する。	まとめノートの作成	45分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「健康」の指導法			科目ナンバリング	YY-S22042
担当者氏名	上田 恵子			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択	開講年次・開講期 2 年 ・ II 期

《授業の概要》

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい・内容・全体構造と、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点や評価、小学校の教科等のつながりについて理解する。また、健康な心と体を育て、幼児自らが健康で安全な生活をつくり出す力を養うために、幼児の健康に関わる現代的課題や保育実践の動向、情報機器や教材の活用法を知り、具体的な保育を想定し、指導案の作成を行う。

《授業外学習》

指導案作成に向けて資料収集や教材作成を計画的に行って下さい。

《テキスト》

シリーズ 知のゆりかご「子どもの姿からはじめる 領域・健康」秋田喜代美・三宅茂夫監修 国土将平・上田恵子編 株式会社みらい

《学習状況・理解度の確認》

課題提出後に授業内にて講評を行い、次に繋げる。わからない事などの質問は授業終了後に受け付ける。

《参考図書》

幼稚園教育要領解説（最新版） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版） 保育所保育指針（最新版）

《備考》

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-1幼児教育の方法を身につける	領域「健康」のねらい・内容・背景にある専門領域との関連について理解している。
◎ 1-1子どもの発達を理解する力	領域「健康」の特性と幼児の発達や学びの過程との関連について理解している。
○ 2-2保育技術を身につける	情報機器や教材を活用し、具体的な指導場面を想定した保育を構成することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	0
授業内課題	60
その他()	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	領域「健康」のねらい1	乳児保育の3つの視点と健康	テキスト p.115～p.121を通読	45分
2	領域「健康」のねらい2	1歳児以上3歳児未満の領域「健康」、3歳児以上の領域「健康」	テキスト p.122～p.129を通読	45分
3	保幼小の連携・接続	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教科とのつながり、連携・接続の実践例	テキスト p.131～p.139を通読	45分
4	「健康」を育む環境構成と援助のあり方1	基本的な生活習慣の形成を支える環境構成と援助	テキスト p.141～p.145を通読	45分
5	「健康」を育む環境構成と援助のあり方2	健康管理と安全能力を育む援助	テキスト p.146～p.149を通読	45分
6	「健康」を育む環境構成と援助のあり方3	運動遊びや生活の中の多様な動きの経験を促す援助	テキスト p.150～p.153を通読	45分
7	領域「健康」の指導法1	保育者との関わりで育てる0、1、2歳児の運動機能、3、4、5歳児の多様な動きを促す遊び	テキスト p.171～p.181を通読	45分
8	領域「健康」の指導法2	幼児期運動指針―多様な動きを獲得することの意義―	テキスト p.182～p.189を通読	45分
9	領域「健康」の指導法3	生活習慣の獲得、生活リズムの獲得、家庭との連携	テキスト p.191～p.201を通読	45分
10	事故防止と安全管理の実際	子ども自らが健康、安全に気づく、ヒヤリ・ハットの事例とハザードマップの作成、安心安全な保育体制のためのPDCAサイクル	テキスト p.203～p.211を通読	45分
11	領域「健康」の指導計画と評価1	健康に関する計画とは	テキスト p.157～p.159を通読	45分
12	領域「健康」の指導計画と評価2	指導案の計画作成と評価	テキスト p.160～p.165を通読	45分
13	領域「健康」の指導計画と評価3	模擬授業にむけての準備、情報機器を用いた指導案作成	指導案の作成	90分
14	模擬保育	模擬保育と振り返り	模擬保育の練習	60分
15	学修のまとめ	学修のまとめ	授業内容の整理	60分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「健康」の指導法			科目ナンバリング	YY-S22042
担当者氏名	上田 恵子			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択	開講年次・開講期 2 年 ・ II 期

《授業の概要》

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい・内容・全体構造と、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点や評価、小学校の教科等のつながりについて理解する。また、健康な心と体を育て、幼児自らが健康で安全な生活をつくり出す力を養うために、幼児の健康に関わる現代的課題や保育実践の動向、情報機器や教材の活用法を知り、具体的な保育を想定し、指導案の作成を行う。

《授業外学習》

指導案作成に向けて資料収集や教材作成を計画的に行って下さい。

《テキスト》

シリーズ 知のゆりかご「子どもの姿からはじめる 領域・健康」秋田喜代美・三宅茂夫監修 国土将平・上田恵子編 株式会社みらい

《学習状況・理解度の確認》

課題提出後に授業内にて講評を行い、次に繋げる。わからない事などの質問は授業終了後に受け付ける。

《参考図書》

幼稚園教育要領解説（最新版） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版） 保育所保育指針（最新版）

《備考》

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-1幼児教育の方法を身につける	領域「健康」のねらい・内容・背景にある専門領域との関連について理解している。
◎ 1-1子どもの発達を理解する力	領域「健康」の特性と幼児の発達や学びの過程との関連について理解している。
○ 2-2保育技術を身につける	情報機器や教材を活用し、具体的な指導場面を想定した保育を構成することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	0
授業内課題	60
その他()	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	領域「健康」のねらい1	乳児保育の3つの視点と健康	テキスト p.115～p.121を通読	45分
2	領域「健康」のねらい2	1歳児以上3歳児未満の領域「健康」、3歳児以上の領域「健康」	テキスト p.122～p.129を通読	45分
3	保幼小の連携・接続	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教科とのつながり、連携・接続の実践例	テキスト p.131～p.139を通読	45分
4	「健康」を育む環境構成と援助のあり方1	基本的な生活習慣の形成を支える環境構成と援助	テキスト p.141～p.145を通読	45分
5	「健康」を育む環境構成と援助のあり方2	健康管理と安全能力を育む援助	テキスト p.146～p.149を通読	45分
6	「健康」を育む環境構成と援助のあり方3	運動遊びや生活の中の多様な動きの経験を促す援助	テキスト p.150～p.153を通読	45分
7	領域「健康」の指導法1	保育者との関わりで育てる0、1、2歳児の運動機能、3、4、5歳児の多様な動きを促す遊び	テキスト p.171～p.181を通読	45分
8	領域「健康」の指導法2	幼児期運動指針―多様な動きを獲得することの意義―	テキスト p.182～p.189を通読	45分
9	領域「健康」の指導法3	生活習慣の獲得、生活リズムの獲得、家庭との連携	テキスト p.191～p.201を通読	45分
10	事故防止と安全管理の実際	子ども自らが健康、安全に気づく、ヒヤリ・ハットの事例とハザードマップの作成、安心安全な保育体制のためのPDCAサイクル	テキスト p.203～p.211を通読	45分
11	領域「健康」の指導計画と評価1	健康に関する計画とは	テキスト p.157～p.159を通読	45分
12	領域「健康」の指導計画と評価2	指導案の計画作成と評価	テキスト p.160～p.165を通読	45分
13	領域「健康」の指導計画と評価3	模擬授業にむけての準備、情報機器を用いた指導案作成	指導案の作成	90分
14	模擬保育	模擬保育と振り返り	模擬保育の練習	60分
15	学修のまとめ	学修のまとめ	授業内容の整理	60分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「人間関係」の指導法			科目ナンバリング	YY-S22043
担当者氏名	高畑 芳美			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択	開講年次・開講期 2年・Ⅱ期

《授業の概要》

領域「人間関係」がめざすものについて学ぶとともに、人のかかわりを育む保育について、自分、子ども、教材の3つの視点から学ぶ。また、模擬保育や事例検討、カンファレンスを通じてより良い保育の在り方について考察し、幼児を多面的に理解しながら実践力を身につける。

《授業外学習》

人とかかわりをはぐくむ遊びについて自分なりに調べ、模擬保育の準備をしておくこと。
配布資料を読み、自身の子どもへの理解のあり方やかかわり方について考察すること。

《テキスト》

保育内容指導法<人間関係>—確かな実践力を身に付ける— 浅井拓久也 編著 萌文書林

《学習状況・理解度の確認》

授業内のグループカンファレンスへの参加態度および、振り返りシート・課題の内容を確認し、フィードバックする。

《参考図書》

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領

《備考》

・グループワークやディスカッションを行う。 ・担当者は公立幼稚園に勤務歴のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 2-1幼児教育の方法を身につける	発達やねらいに基づく保育展開の重要性を理解し、実践することができる。
◎ 2-2保育技術を身につける	幼児を多面的に理解する力をつけ、よりよい保育の在り方を考察し、展開する。
○ 2-3多様な子どもの発達を支援できる	幼児の多様性を理解し、それに応じた支援の在り方について理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	20
レポート	30
発表・実技	40
授業内課題	10
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	保育内容の指導方法の目的と意義	授業の目的や全体計画を把握し、理解する。	シラバスを確認する。	45分
2	領域「人間関係」の目的と意義	領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、保育者の役割や心構えについて理解を深める。	幼稚園教育要領の該当部分通読	45分
3	0.1.2歳児の人と関わる力の育ちを考える	人と関わる力を育むふれあい遊びのもつ発達の意味を考え、0.1.2歳児の対人関係の育ちが捉えられるようにする。	0.1.2歳児の発達について復習し	45分
4	3.4.5歳児の人と関わる力の育ちを考える	ルールのある遊びを通して育つ規範意識や道徳性など3.4.5歳児の対人関係の育ちが捉えられるようにする。	3.4.5歳児の発達について復習し	45分
5	ケーススタディ：子どもの葛藤場面について考える	葛藤場面を通しての子どもの対人関係の育ちを読み取る力を身に付ける。	観察記録の書き方のポイントを	45分
6	ケーススタディ：特別な配慮を必要とする子どもへの関わり	特別な配慮を必要とする子どもの保育場面での保育者の支援を考える。	特別な配慮を必要とする子ども	45分
7	0.1.2歳児の指導案の作成	0.1.2歳児の保育指導案の作成ポイントや気を付ける点について理解する。	指導案の書き方のポイントを調	45分
8	3.4.5歳児の指導案の作成	3.4.5歳児の保育指導案の作成ポイントや気を付ける点について理解する。	指導案作成の留意点について調	45分
9	人と関わる力を育む遊びの教材を作成する1	子どもとのやりとり遊びを楽しむための教材を考える。	教材の案を考えておく	45分
10	人と関わる力を育む遊びの教材を作成する2	個人で考えた教材を作成する。	作成する教材について必要な準備	45分
11	人と関わる力を育む遊びの教材を作成する3	教材発表を通して、子どもの人と関わる力を育む保育者としての姿を自己評価・他者評価する。	発表の準備をする	45分
12	模擬保育の指導案の作成	人間関係に着目した保育指導案をグループで作成し、そのポイントについて学ぶ。	これまでの授業内容の整理し、	45分
13	模擬保育のグループワーク	グループで、保育者と子ども役を決め、模擬保育の練習をする。	模擬保育に必要な教材を準備す	45分
14	模擬保育の発表と振り返り	各グループの模擬保育を発表し、総括と指導案修正を行う。	模擬保育の準備をする	45分
15	まとめ	人とかかわる保育の在り方について、これまでの授業内容を振り返り、自身の到達度を確認する。	これまでの学びの振り返り	45分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「人間関係」の指導法			科目ナンバリング	YY-S22043
担当者氏名	高畑 芳美			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択	開講年次・開講期 2年・Ⅱ期

《授業の概要》

領域「人間関係」がめざすものについて学ぶとともに、人とのかかわりを育む保育について、自分、子ども、教材の3つの視点から学ぶ。また、模擬保育や事例検討、カンファレンスを通じてより良い保育の在り方について考察し、幼児を多面的に理解しながら実践力を身につける。

《授業外学習》

人とかかわりをはぐくむ遊びについて自分なりに調べ、模擬保育の準備をしておくこと。
配布資料を読み、自身の子どもへの理解のあり方やかかわり方について考察すること。

《テキスト》

保育内容指導法<人間関係>-確かな実践力を身に付ける- 浅井拓久也 編著 萌文書林

《学習状況・理解度の確認》

授業内のグループカンファレンスへの参加態度および、振り返りシート・課題の内容を確認し、フィードバックする。

《参考図書》

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領

《備考》

・グループワークやディスカッションを行う。 ・担当者は公立幼稚園に勤務歴のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 2-1幼児教育の方法を身につける	発達やねらいに基づく保育展開の重要性を理解し、実践することができる。
◎ 2-2保育技術を身につける	幼児を多面的に理解する力をつけ、よりよい保育の在り方を考察し、展開する。
○ 2-3多様な子どもの発達を支援できる	幼児の多様性を理解し、それに応じた支援の在り方について理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	20
レポート	30
発表・実技	40
授業内課題	10
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	保育内容の指導方法の目的と意義	授業の目的や全体計画を把握し、理解する。	シラバスを確認する。	45分
2	領域「人間関係」の目的と意義	領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、保育者の役割や心構えについて理解を深める。	幼稚園教育要領の該当部分通読	45分
3	0.1.2歳児の人と関わる力の育ちを考える	人と関わる力を育むふれあい遊びのもつ発達の意味を考え、0.1.2歳児の対人関係の育ちが捉えられるようにする。	0.1.2歳児の発達について復習し	45分
4	3.4.5歳児の人と関わる力の育ちを考える	ルールのある遊びを通して育つ規範意識や道徳性など3.4.5歳児の対人関係の育ちが捉えられるようにする。	3.4.5歳児の発達について復習し	45分
5	ケーススタディ：子どもの葛藤場面について考える	葛藤場面を通しての子どもの対人関係の育ちを読み取る力を身に付ける。	観察記録の書き方のポイントを	45分
6	ケーススタディ：特別な配慮を必要とする子どもへの関わり	特別な配慮を必要とする子どもの保育場面での保育者の支援を考える。	特別な配慮を必要とする子ども	45分
7	0.1.2歳児の指導案の作成	0.1.2歳児の保育指導案の作成ポイントや気を付ける点について理解する。	指導案の書き方のポイントを調	45分
8	3.4.5歳児の指導案の作成	3.4.5歳児の保育指導案の作成ポイントや気を付ける点について理解する。	指導案作成の留意点について調	45分
9	人と関わる力を育む遊びの教材を作成する1	子どもとのやりとり遊びを楽しむための教材を考える。	教材の案を考えておく	45分
10	人と関わる力を育む遊びの教材を作成する2	個人で考えた教材を作成する。	作成する教材について必要な準備	45分
11	人と関わる力を育む遊びの教材を作成する3	教材発表を通して、子どもの人と関わる力を育む保育者としての姿を自己評価・他者評価する。	発表の準備をする	45分
12	模擬保育の指導案の作成	人間関係に着目した保育指導案をグループで作成し、そのポイントについて学ぶ。	これまでの授業内容の整理し、	45分
13	模擬保育のグループワーク	グループで、保育者と子ども役を決め、模擬保育の練習をする。	模擬保育に必要な教材を準備す	45分
14	模擬保育の発表と振り返り	各グループの模擬保育を発表し、総括と指導案修正を行う。	模擬保育の準備をする	45分
15	まとめ	人とかかわる保育の在り方について、これまでの授業内容を振り返り、自身の到達度を確認する。	これまでの学びの振り返り	45分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「環境」の指導法			科目ナンバリング	YY-S22044
担当者氏名	三宅 茂夫			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択	開講年次・開講期
					2 年 ・ I 期

《授業の概要》

領域「環境」は、子どもが身近な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活や遊びに取り入れていこうとする力を養うことを目標としている。

本授業では、幼児教育の基本である「環境を通して行う教育」という視点から領域「環境」のねらいを捉え、資質・能力の育成を目指した保育実践力の構築をめざして、保育の計画や実施・評価に必要な知識や技能について模擬保育等を通して学ぶ。

《テキスト》

東義也編 「子どもの姿からはじめる 領域・環境」 みらい 2020
田中亨胤・三宅茂夫編 「知のゆりかご 教育・保育カリキュラム論」 みらい 2019

《参考図書》

文部科学省編「幼稚園教育要領解説」2018 フレーベル館 厚生労働省編「保育所保育指針解説書」2018 フレーベル館

《授業外学習》

今回の授業の予習や模擬保育等の準備を入念にしておくこと。日常的に授業に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めること。

《学習状況・理解度の確認》

レポート等の提出

《備考》

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 2-1幼児教育の方法を身につける	教育の基本である「環境による教育」の理解
◎ 2-2保育技術を身につける	保育の計画と実施・評価に関する理論の理解と実践力の修得
○ 2-3多様な子どもの発達を支援できる	子ども理解の基づく保育実践における理論と実践力の習得

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	25
発表・実技	50
授業内課題	25
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	本授業の展開についてのオリエンテーション	シラバスを熟読する。	60分
2	「資質・能力」からみた領域環境	資質・能力の育成に向けた保育実践について	資質・能力と領域環境の学習	120分
3	主体的、対話的で深い学びに向けた保育について	主体的、対話的で深い学びに向けた保育の方法について	深い学びについて学習	120分
4	模擬保育の実際と学び方のポイント・模擬保育の準備	模擬保育の実際と学び方のポイント・模擬保育の準備について	模擬保育の意味について	120分
5	模擬保育の説明と実践①	模擬保育の内容等の事前説明と模擬保育の実施	模擬保育の準備	120分
6	模擬保育の反省と次回指導案の検討①	模擬保育の反省と次回模擬保育の指導案の検討	模擬保育の反省と次回保育準備	120分
7	模擬保育の説明と実践②	模擬保育の内容等の事前説明と模擬保育の実施	模擬保育の準備	120分
8	模擬保育の反省と次回指導案の検討②	模擬保育の反省と次回模擬保育の指導案の検討	模擬保育の反省と次回保育準備	120分
9	模擬保育の説明と実践③	模擬保育の内容等の事前説明と模擬保育の実施	模擬保育の準備	120分
10	模擬保育の反省と次回指導案の検討③	模擬保育の反省と次回模擬保育の指導案の検討	模擬保育の反省と次回保育準備	120分
11	模擬保育の説明と実践④	模擬保育の内容等の事前説明と模擬保育の実施	模擬保育の準備	120分
12	模擬保育の反省と次回指導案の検討④	模擬保育の反省と次回模擬保育の指導案の検討	模擬保育の反省と次回保育準備	120分
13	模擬保育の説明と実践⑤	模擬保育の内容等の事前説明と模擬保育の実施	模擬保育の準備	120分
14	模擬保育の反省⑤	模擬保育の反省と次回模擬保育の指導案の検討	模擬保育の反省と次回保育準備	120分
15	まとめ	学びのまとめ	学びの整理	120分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「言葉」の指導法			科目ナンバリング	YY-L22045
担当者氏名	未定			担当形態	
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択	開講年次・開講期 2 年 ・ II 期

《授業の概要》

幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。

《授業外学習》

・体験を通して学びが深まるよう、各実践の学びの課題を理解しておくこと。

《テキスト》

大橋喜美子・川北典子編著『保育内容 指導法「言葉」－乳幼児と育む豊かなことばの世界－』建帛社、2021年

《学習状況・理解度の確認》

・授業内課題として小レポートを提出、返却し、授業の理解度を確認する。

《参考図書》

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び各解説書

《備考》

・科目担当者は、実務経験者（幼稚園勤務歴あり）である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-2保育技術を身につける	保育実践に必要な様々な技術や保育の方法を知る。
○ 1-1子どもの発達を理解する力	子ども理解をもとに、保育のねらいを立てて保育展開が行われる過程を理解する。
○ 2-3多様な子どもの発達を支援できる	多様な子どもの育ちを支えることの意義や理念を再確認し、保育者としての使命感を養う。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	20
発表・実技	50
授業内課題	30
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	領域「言葉」とは	人にとって言葉とは何か、領域「言葉」のねらい及び内容について学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
2	子どもの言葉の発達過程(1)	言葉を生む基盤と話し言葉の発達の道筋を学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
3	子どもの言葉の発達過程(2)	書き言葉の発達の道筋と小学校における書き言葉について学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
4	言葉を育む環境構成と援助①	話したい、聞きたい意欲を生む援助の在り方について学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
5	言葉を育む環境構成と援助②	生活に必要な言葉の習得を支える援助について学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
6	言葉を育む環境構成と援助③	言葉のすれ違いやうまく伝わらないもどかしさへの援助について学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
7	言葉を豊かにする環境構成と援助	言葉による伝え合いを育む援助の在り方を学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
8	子どもの言葉を豊かにする児童文化財	様々な言葉遊び(しりとり・言葉あつまめ・なぞなぞ他)を知り、言葉の面白さや美しさを感じる。	プリント・資料の復習	45分
9	子どもの言葉を豊かにする児童文化財	絵本・紙芝居・物語などの実際の保育の中での生かし方を学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
10	子どもの言葉を育む保育の実際	模擬保育に向けての教材研究をする。教材を作成する。	プリント・資料の復習	45分
11	子どもの言葉を育む保育の実際	領域「言葉」に関する具体的保育場面を想定した指導案を作成する。	プリント・資料の復習	45分
12	子どもの言葉を育む保育の実際	模擬保育の実施。グループワーク	プリント・資料の復習	45分
13	子どもの言葉を育む保育の実際	模擬保育の実施。グループワーク	プリント・資料の復習	45分
14	子どもの言葉を育む保育の実際	模擬保育を振り返る。グループワーク	プリント・資料の復習	45分
15	子どもの言葉を育み、豊かにする保育実践	「言葉」をめぐる現代的課題と特別な配慮が必要な幼児への指導を踏まえた「言葉」に関わる保育実践を学ぶ。	プリント・資料の復習	45分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「言葉」の指導法			科目ナンバリング	YY-L22045
担当者氏名	田井 敦子			担当形態	
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択	開講年次・開講期 2 年 ・ II 期

《授業の概要》

幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。

《授業外学習》

・体験を通して学びが深まるよう、各実践の学びの課題を理解しておくこと。

《テキスト》

大橋喜美子・川北典子編著『保育内容 指導法「言葉」－乳幼児と育む豊かなことばの世界－』建帛社、2021年

《学習状況・理解度の確認》

・授業内課題として小レポートを提出、返却し、授業の理解度を確認する。

《参考図書》

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び各解説書

《備考》

・科目担当者は、実務経験者（幼稚園勤務歴あり）である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-2保育技術を身につける	保育実践に必要な様々な技術や保育の方法を知る。
○ 1-1子どもの発達を理解する力	子ども理解をもとに、保育のねらいを立てて保育展開が行われる過程を理解する。
○ 2-3多様な子どもの発達を支援できる	多様な子どもの育ちを支えることの意義や理念を再確認し、保育者としての使命感を養う。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	70
小テスト	
レポート	
発表・実技	20
授業内課題	10
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	領域「言葉」とは	人にとって言葉とは何か、領域「言葉」のねらい及び内容について学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
2	子どもの言葉の発達過程(1)	言葉を生む基盤と話し言葉の発達の道筋を学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
3	子どもの言葉の発達過程(2)	書き言葉の発達の道筋と小学校における書き言葉について学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
4	言葉を育む環境構成と援助①	話したい、聞きたい意欲を生む援助の在り方について学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
5	言葉を育む環境構成と援助②	生活に必要な言葉の習得を支える援助について学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
6	言葉を育む環境構成と援助③	言葉のすれ違いやうまく伝わらないもどかしさへの援助について学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
7	言葉を豊かにする環境構成と援助	言葉による伝え合いを育む援助の在り方を学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
8	子どもの言葉を豊かにする児童文化財	様々な言葉遊び(しりとり・言葉あつまめ・なぞなぞ他)を知り、言葉の面白さや美しさを感じる。	プリント・資料の復習	45分
9	子どもの言葉を豊かにする児童文化財	絵本・紙芝居・物語などの実際の保育の中での生かし方を学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
10	子どもの言葉を育む保育の実際	領域「言葉」に関する具体的な保育場面を想定した指導案を作成する。	プリント・資料の復習	45分
11	子どもの言葉を育む保育の実際	模擬保育に向けての教材研究をする。教材を作成する。	プリント・資料の復習	45分
12	子どもの言葉を育む保育の実際	模擬保育の実施。グループワーク	プリント・資料の復習	45分
13	子どもの言葉を育む保育の実際	模擬保育の実施。グループワーク	プリント・資料の復習	45分
14	子どもの言葉を育み、豊かにする保育実践	「言葉」をめぐる現代的課題と特別な配慮が必要な幼児への指導を踏まえた「言葉」に関わる保育実践を学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
15	テスト			60分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「表現」の指導法（音楽）			科目ナンバリング	YY-S22046
担当者氏名	立本 千寿子			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択	開講年次・開講期
					2 年 ・ I 期

《授業の概要》

保育現場での実践力を高めるために、年間を通じた乳幼児の育ちや総合的表現という視野から音楽を捉える中で、音楽の活用方法を学ぶ。また、乳幼児にとってのねらいを達成する為に必要な具体的な指導方法について学び、実践力を修得する。

《授業外学習》

・ 授業で学んだことを反復練習して、自分の技能として定着できるように努めること。
 ・ 課題を授業時間内に完成できなかった場合は、次の授業までに仕上げて持参すること。

《テキスト》

・ 「新・幼児の音楽教育」/井口太/朝日出版社/2015 ・ 「実践しながら学ぶ子どもの音楽表現」/石井玲子他/保育出版社/2010

《学習状況・理解度の確認》

・ 質問や補講レッスン等は、オフィスアワーで受け付ける。

《参考図書》

テーマごとに適宜、提示する。

《備考》

Teaching Methods for Childcare Content Expression (Music) ML室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2保育技術を身につける	手遊びのレパートリーを増やし、音程を正しく、保育者らしい表現ができる。
	2-2保育技術を身につける	様々なリズムパターンを修得できる。
○	2-1幼児教育の方法を身につける	教材を教育的視点からイメージ豊かに作ることができる。
	2-1幼児教育の方法を身につける	保育指導案を正しく、自分の意図を持って作成できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	30
小テスト	
レポート	10
発表・実技	30
授業内課題	30
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	本授業内容全体における説明を行う。授業の到達目標・成績評価の方法を確認する。	知識・技能の習得	45分
2	手遊びの指導法 (1)	各年齢に適した手遊び曲の習得と導入法について	知識・技能の習得	45分
3	手遊びの指導法 (2)	季節・動物・数字等それぞれのテーマ性を持った手遊びの習得	知識・技能の習得	45分
4	手遊びの指導法 (3)	ストーリー性・ゲーム性・教育的テーマ性を持った手遊びの習得	知識・技能の習得	45分
5	幼児とリズム表現 (1)	4分の4拍子・4分の3拍子・4分の2拍子・8分の6拍子の理解と様々なリズムパターン	知識・技能の習得	45分
6	幼児とリズム表現 (2)	マーチやスキップ等幼児の動きとリズム・ボディパーカッション	知識・技能の習得	45分
7	幼児とリズム表現 (3)	「おはなしリズム」・「おはなしリズム」を組み合わせた音楽表現の創造	知識・技能の習得	45分
8	わらべうた (1)	乳児を対象としたわらべうた・幼児（各年齢ごと）を対象としたわらべうた	知識・技能の習得	45分
9	わらべうた (2)	乳幼児に身近な物や小道具を用いたわらべうた	知識・技能の習得	45分
10	わらべうた (3)	身体表現を伴うわらべうた・ゲーム性のあるわらべうた	知識・技能の習得	45分
11	音楽の保育展開と教材開発 (1)	指人形の制作	知識・技能の習得	45分
12	音楽の保育展開と教材開発 (2)	制作した指人形を用いた音楽遊び・身近にある物を用いてできる音楽遊び	知識・技能の習得	45分
13	指導法の検討 (1)	音楽を用いた保育指導案の立案・作成（保育園での設定保育を視座として）	知識・技能の習得	45分
14	指導法の検討 (2)	音楽を用いた保育指導案の立案・作成（保育園での設定保育を視座として）	知識・技能の習得	45分
15	総まとめ	これまでの学びを振り返り、まとめを行う。	知識・技能の習得	45分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「表現」の指導法（音楽）			科目ナンバリング	YY-S22046
担当者氏名	立本 千寿子			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択	開講年次・開講期
					2 年 ・ I 期

《授業の概要》

保育現場での実践力を高めるために、年間を通じた乳幼児の育ちや総合的表現という視野から音楽を捉える中で、音楽の活用方法を学ぶ。また、乳幼児にとってのねらいを達成する為に必要な具体的な指導方法について学び、実践力を修得する。

《授業外学習》

・ 授業で学んだことを反復練習して、自分の技能として定着できるように努めること。
 ・ 課題を授業時間内に完成できなかった場合は、次の授業までに仕上げて持参すること。

《テキスト》

・ 「新・幼児の音楽教育」/井口太/朝日出版社/2015 ・ 「実践しながら学ぶ子どもの音楽表現」/石井玲子他/保育出版社/2010

《学習状況・理解度の確認》

・ 質問や補講レッスン等は、オフィスアワーで受け付ける。

《参考図書》

テーマごとに適宜、提示する。

《備考》

Teaching Methods for Childcare Content Expression (Music) ML室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2保育技術を身につける	手遊びのレパートリーを増やし、音程を正しく、保育者らしい表現ができる。
	2-2保育技術を身につける	様々なリズムパターンを修得できる。
○	2-1幼児教育の方法を身につける	教材を教育的視点からイメージ豊かに作ることができる。
	2-1幼児教育の方法を身につける	保育指導案を正しく、自分の意図を持って作成できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	30
小テスト	
レポート	10
発表・実技	30
授業内課題	30
その他 ()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	本授業内容全体における説明を行う。授業の到達目標・成績評価の方法を確認する。	知識・技能の習得	45分
2	手遊びの指導法 (1)	各年齢に適した手遊び曲の習得と導入法について	知識・技能の習得	45分
3	手遊びの指導法 (2)	季節・動物・数字等それぞれのテーマ性を持った手遊びの習得	知識・技能の習得	45分
4	手遊びの指導法 (3)	ストーリー性・ゲーム性・教育的テーマ性を持った手遊びの習得	知識・技能の習得	45分
5	幼児とリズム表現 (1)	4分の4拍子・4分の3拍子・4分の2拍子・8分の6拍子の理解と様々なリズムパターン	知識・技能の習得	45分
6	幼児とリズム表現 (2)	マーチやスキップ等幼児の動きとリズム・ボディパーカッション	知識・技能の習得	45分
7	幼児とリズム表現 (3)	「おはなしリズム」・「おはなしリズム」を組み合わせた音楽表現の創造	知識・技能の習得	45分
8	わらべうた (1)	乳児を対象としたわらべうた・幼児（各年齢ごと）を対象としたわらべうた	知識・技能の習得	45分
9	わらべうた (2)	乳幼児に身近な物や小道具を用いたわらべうた	知識・技能の習得	45分
10	わらべうた (3)	身体表現を伴うわらべうた・ゲーム性のあるわらべうた	知識・技能の習得	45分
11	音楽の保育展開と教材開発 (1)	指人形の制作	知識・技能の習得	45分
12	音楽の保育展開と教材開発 (2)	制作した指人形を用いた音楽遊び・身近にある物を用いてできる音楽遊び	知識・技能の習得	45分
13	指導法の検討 (1)	音楽を用いた保育指導案の立案・作成（保育園での設定保育を視座として）	知識・技能の習得	45分
14	指導法の検討 (2)	音楽を用いた保育指導案の立案・作成（保育園での設定保育を視座として）	知識・技能の習得	45分
15	総まとめ	これまでの学びを振り返り、まとめを行う。	知識・技能の習得	45分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「表現」の指導法（造形）			科目ナンバリング	YY-S22047
担当者氏名	満田 知美			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択	開講年次・開講期
					2 年 ・ I 期

《授業の概要》

子どもの絵画・造形表現には、発達的な特徴とその個性が表れます。まずは発達的な特徴を子どもたちの作品を通して学びます。年齢ごとに技能の習熟と共に意図性が高まります。また指導者の予想を上回る観察力や発想力も感じ取れます。子どもとの作品作りを通しての充実感や達成感を導く教材の工夫について学びます。

《授業外学習》

予習方法：毎回、使用する素材や材料について収集及び研究をする。
 復習方法：授業の内容を再確認し、疑問点がある場合は随時又は、オフィスアワーなどの時間で答える。

《テキスト》

時間毎に計画書と参考資料を配付する。

《学習状況・理解度の確認》

分からないことはオフィスアワーの時間で質問を受ける。保育内容「表現」の指導法（造形） Teaching method for childcare content “expression” (modeling)

《参考図書》

造形表現・図画工作 建帛社

《備考》

授業のはじめに出席をとります。保育内容「表現」の指導法（造形） Teaching method for childcare content “expression” (modeling)

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-2保育技術を身につける	直感と経験と類推の積み重ねにより造形表現や技術を自由自在に扱えるようになる。
○ 3-2社会資源を理解し活用できる力	造形表現についての捉え方、環境の構成、背景にある指導計画も意識しながらテーマを選ぶ力を身につける。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	90
授業内課題	10
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	シラバス、課題、材料、道具の説明。	授業内容の整理	45分
2	保育内容・領域「表現」について1	3歳未満の子どもの表現—感覚世界と心地よさとその再現について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
3	保育内容・領域「表現」について2	3歳以上の子どもの表現—意味と表現の世界について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
4	環境を構成する保育者について	何を表現の題材とするのかを見極め、自然、生活、文化的環境について学び、ねらいをまとめられるかを発表する。	使用材料、道具の収集	45分
5	子どもと表現1	身体表現について理解し、子どもと見せる踊りの習得方法について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
6	子どもと表現2	身体表現について理解し、子どもと見せる踊りの習得し発表する。	使用材料、道具の収集	45分
7	子どもと表現3	描画・造形・表現の年齢別発達の流れ、感覚的な楽しさ、イメージを描き出す喜びについて学び、自由制作に挑戦する。	使用材料、道具の収集	45分
8	子どもと表現4	描画・造形・表現の年齢別の苦手意識が導く原因、図式化して描けない場合の対処について理解し、自由制作に挑戦する。	使用材料、道具の収集	45分
9	表現の場としての行事と学び1	体験が生む描画・造形 2歳児の表現について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
10	表現の場としての行事と学び2	体験が生む描画・造形 3歳児の表現について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
11	表現の場としての行事と学び3	体験が生む描画・造形 4歳児の表現について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
12	表現の場としての行事と学び4	体験が生む描画・造形 5歳児の表現について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
13	表現の場としての行事と学び4	遊びを劇的表現につなぐ生活発表会、人形劇について学ぶ。配役、台本、ピアノ演奏などリハーサルを行う。	使用材料、道具の収集	45分
14	表現の場としての行事と学び4	遊びを劇的表現につなぐ生活発表会、人形劇について学び発表する。	使用材料、道具の収集	45分
15	まとめ	これからの子どもの表現と保育者について考察し、得意分野の教材研究についてレポートとしてまとめる。	授業内容の理解	45分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「表現」の指導法（造形）			科目ナンバリング	YY-S22047
担当者氏名	満田 知美			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択	開講年次・開講期 2 年 ・ I 期

《授業の概要》

子どもの絵画・造形表現には、発達的な特徴とその個性が表れます。まずは発達的な特徴を子どもたちの作品を通して学びます。年齢ごとに技能の習熟と共に意図性が高まります。また指導者の予想を上回る観察力や発想力も感じ取れます。子どもとの作品作りを通しての充実感や達成感を導く教材の工夫について学びます。

《授業外学習》

予習方法：毎回、使用する素材や材料について収集及び研究をする。
復習方法：授業の内容を再確認し、疑問点がある場合は随時又は、オフィスアワーなどの時間で答える。

《テキスト》

時間毎に計画書と参考資料を配付する。

《学習状況・理解度の確認》

分からないことはオフィスアワーの時間で質問を受ける。

《参考図書》

造形表現・図画工作 建帛社

《備考》

授業のはじめに出席をとります。保育内容「表現」の指導法（造形）Teaching method for childcare content “expression” (modeling)

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2保育技術を身につける	直感と経験と類推の積み重ねにより造形表現や技術を自由自在に扱えるようになる。
○	3-2社会資源を理解し活用できる力	造形表現についての捉え方、環境の構成、背景にある指導計画も意識しながらテーマを選ぶ力を身につける。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	90
授業内課題	10
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	シラバス、課題、材料、道具の説明。	授業内容の整理	45分
2	保育内容・領域「表現」について1	3歳未満の子どもの表現ー感覚世界と心地よさとその再現について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
3	保育内容・領域「表現」について2	3歳以上の子どもの表現ー意味と表現の世界について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
4	環境を構成する保育者について	何を表現の題材とするのかを見極め、自然、生活、文化的環境について学び、ねらいをまとめられるかを発表する。	使用材料、道具の収集	45分
5	子どもと表現1	身体表現について理解し、子どもと見せる踊りの習得方法について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
6	子どもと表現2	身体表現について理解し、子どもと見せる踊りの習得し発表する。	使用材料、道具の収集	45分
7	子どもと表現3	描画・造形・表現の年齢別発達の流れ、感覚的な楽しさ、イメージを描き出す喜びについて学び、自由制作に挑戦する。	使用材料、道具の収集	45分
8	子どもと表現4	描画・造形・表現の年齢別の苦手意識が導く原因、図式化して描けない場合の対処について理解し、自由制作に挑戦する。	使用材料、道具の収集	45分
9	表現の場としての行事と学び1	体験が生む描画・造形 2歳児の表現について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
10	表現の場としての行事と学び2	体験が生む描画・造形 3歳児の表現について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
11	表現の場としての行事と学び3	体験が生む描画・造形 4歳児の表現について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
12	表現の場としての行事と学び4	体験が生む描画・造形 5歳児の表現について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
13	表現の場としての行事と学び4	遊びを劇的表現につなぐ生活発表会、人形劇について学ぶ。配役、台本、ピアノ演奏などリハーサルを行う。	使用材料、道具の収集	45分
14	表現の場としての行事と学び4	遊びを劇的表現につなぐ生活発表会、人形劇について学び発表する。	使用材料、道具の収集	45分
15	まとめ	これからの子どもの表現と保育者について考察し、得意分野の教材研究についてレポートとしてまとめる。	授業内容の理解	45分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「表現」の指導法（身体）			科目ナンバリング	YY-S22048
担当者氏名	松岡 祐子			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択	開講年次・開講期
					2 年 ・ I 期

《授業の概要》

幼稚園教育要領及び保育所保育指針、領域「表現」の基本的知識を理解し、様々な身体表現活動を通して、保育において子どもの表現を育てるために必要な知識と技能を実践的に学ぶ。

《授業外学習》

各回ごとにまとめた授業の内容を復習し、すぐに現場で実践できるように多くの身体表現遊びを習得しておくこと。

《テキスト》

適宜プリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業内容を記録したノートを定期的に提出し、コメントをつけて返却する。発表後は、学生同士の相互評価及び講評を行う。

《参考図書》

「新・幼児の音楽教育」/井口太/朝日出版社/2015

《備考》

・動きやすい服装（スカートは不可）で、底の薄いシューズで参加すること。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 2-1幼児教育の方法を身につける	幼児の発達段階を踏まえ、幼児の身体表現を導く方法を習得することができる。
◎ 2-2保育技術を身につける	保育現場において、幼児の表現活動への援助、指導法及び総合的に創意工夫できる表現力を習得することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	40
小テスト	
レポート	
発表・実技	30
授業内課題	20
その他()	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	ガイダンス	授業内容の説明。幼稚園教育要領、保育所保育指針の示す領域「表現」について理解する。	幼稚園教育要領の通読	45分
2	リトミックについて	リトミックの意義、目的、内容の概略を学び、リトミックとは何かを理解する。	参考書の通読	45分
3	リズムの認識と理解	リズムの理解と基礎的な動きを学ぶ。	配布されたプリントの通読	45分
4	リズム運動 ①	基礎リズムの理解。リズム打ちとステップ。	リズムステップの練習	60分
5	リズム運動 ②	拍子の聴き分けと動きによる表現を学ぶ。（スティック、ボール等）	基礎リズムを覚えておくこと	60分
6	リズム運動 ③	拍子の聴き分けと動きによる表現を学ぶ。。即時反応と合図	これまでの授業内容の整理	60分
7	ことばとリズム	ことばのリズムを使った表現遊び。カルタ遊びから、リズム表現遊びへの展開。	配布されたプリントの通読	45分
8	わらべうた遊び ①	様々な教具を使った表現活動への展開。	伝統的な遊び曲の収集	45分
9	わらべうた遊び ②	各グループごとに、わらべうた遊びを発表する。	グループでの発表練習	60分
10	道具を使った遊び ①	なりきり遊び（スカーフ、紙皿、ハンカチ等）	素材を用いた課題作成	45分
11	道具を使った遊び ②	リズム遊び（ロープ）	配布されたプリント課題の練習	45分
12	音と動き	音からイメージした身体の動きの自由な表現。オノマトペ。	オノマトペについて調べる	45分
13	子どものリズムダンス	子どもの遊び歌を題材にしたリズムダンスへの展開。	子どもの遊び歌の収集	45分
14	創作表現	幼児曲を題材にした、グループ別創作演習。	配布された課題曲の発表準備	90分
15	創作表現の発表と授業の総括	グループ別、創作発表。授業の振り返り。	グループでの発表練習	90分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「表現」の指導法（身体）			科目ナンバリング	YY-S22048
担当者氏名	松岡 祐子			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択	開講年次・開講期
					2 年 ・ I 期

《授業の概要》

幼稚園教育要領及び保育所保育指針、領域「表現」の基本的知識を理解し、様々な身体表現活動を通して、保育において子どもの表現を育てるために必要な知識と技能を実践的に学ぶ。

《授業外学習》

各回ごとにまとめた授業の内容を復習し、すぐに現場で実践できるように多くの身体表現遊びを習得しておくこと。

《テキスト》

適宜プリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業内容を記録したノートを定期的に提出し、コメントをつけて返却する。発表後は、学生同士の相互評価及び講評を行う。

《参考図書》

「新・幼児の音楽教育」/井口太/朝日出版社/2015

《備考》

・動きやすい服装（スカートは不可）で、底の薄いシューズで参加すること。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 2-1幼児教育の方法を身につける	幼児の発達段階を踏まえ、幼児の身体表現を導く方法を習得することができる。
◎ 2-2保育技術を身につける	保育現場において、幼児の表現活動への援助、指導法及び総合的に創意工夫できる表現力を習得することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	40
小テスト	
レポート	
発表・実技	30
授業内課題	20
その他()	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	ガイダンス	授業内容の説明。幼稚園教育要領、保育所保育指針の示す領域「表現」について理解する。	幼稚園教育要領の通読	45分
2	リトミックについて	リトミックの意義、目的、内容の概略を学び、リトミックとは何かを理解する。	参考書の通読	45分
3	リズムの認識と理解	リズムの理解と基礎的な動きを学ぶ。	配布されたプリントの通読	45分
4	リズム運動 ①	基礎リズムの理解。リズム打ちとステップ。	リズムステップの練習	60分
5	リズム運動 ②	拍子の聴き分けと動きによる表現を学ぶ。（スティック、ボール等）	基礎リズムを覚えておくこと	60分
6	リズム運動 ③	拍子の聴き分けと動きによる表現を学ぶ。。即時反応と合図	これまでの授業内容の整理	60分
7	ことばとリズム	ことばのリズムを使った表現遊び。カルタ遊びから、リズム表現遊びへの展開。	配布されたプリントの通読	45分
8	わらべうた遊び ①	様々な教具を使った表現活動への展開。	伝統的な遊び曲の収集	45分
9	わらべうた遊び ②	各グループごとに、わらべうた遊びを発表する。	グループでの発表練習	60分
10	道具を使った遊び ①	なりきり遊び（スカーフ、紙皿、ハンカチ等）	素材を用いた課題作成	45分
11	道具を使った遊び ②	リズム遊び（ロープ）	配布されたプリント課題の練習	45分
12	音と動き	音からイメージした身体の動きの自由な表現。オノマトペ。	オノマトペについて調べる	45分
13	子どものリズムダンス	子どもの遊び歌を題材にしたリズムダンスへの展開。	子どもの遊び歌の収集	45分
14	創作表現	幼児曲を題材にした、グループ別創作演習。	配布された課題曲の発表準備	90分
15	創作表現の発表と授業の総括	グループ別、創作発表。授業の振り返り。	グループでの発表練習	90分

《専門教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	YJ-F24010
担当者氏名	磯野 久美子	担当形態	単独
授業方法	実習	単位・必選	4 ・ 選択
		開講年次・開講期	4 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育実習指導での学びや他の関連科目の内容を総合的にまとめて理解し、教育実習生として必要な意識や態度、保育実践に携わる素地を身に付けて実習に臨み、実習経験を通して保育者として有効に活かせるよう課題を見出す。

《授業外学習》

- ・実習に必要な手遊び、歌、絵本等の準備をしておく。
- ・部分実習等に必要な教材研究を含めた準備をしておく。

《テキスト》

『幼稚園教育実習の手引き』

《学習状況・理解度の確認》

実習日誌等をもとに、事後指導を行い、実習での学びと課題が明確になるようにする。

《参考図書》

『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び各解説書

《備考》

・実習中の体調管理に留意し、実習園の保育方針や保育内容等を十分理解して実習に望むこと。・科目担当者は、実務経験者（幼稚園勤務歴あり）であり、実習先では、実務経験者による指導を受ける。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-1幼児教育の方法を身につける	教育実習に必要な知識と心構えを学び、教育実習を通して、自己の子ども観、保育観を構築しながら、保育者として必要な課題を見出す。
○ 2-2保育技術を身につける	教育実習に必要な保育技術を身に付け、子どもとの関わりや保育展開の中での的確に使えるようになる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	
授業内課題	
その他()	100
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	幼稚園実習（4週間）	教育実習指導及び関連科目での学びを踏まえ、自己課題を明確にして実習に臨む。	実習日誌、指導案	90分
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《専門教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	YJ-F24010
担当者氏名	磯野 久美子	担当形態	単独
授業方法	実習	単位・必選	4 ・ 選択
		開講年次・開講期	4 年 ・ I 期

《授業の概要》

教育実習指導での学びや他の関連科目の内容を総合的にまとめて理解し、教育実習生として必要な意識や態度、保育実践に携わる素地を身に付けて実習に臨み、実習経験を通して保育者として有効に活かせるよう課題を見出す。

《授業外学習》

- ・実習に必要な手遊び、歌、絵本等の準備をしておく。
- ・部分実習等に必要な教材研究を含めた準備をしておく。

《テキスト》

『幼稚園教育実習の手引き』

《学習状況・理解度の確認》

実習日誌等をもとに、事後指導を行い、実習での学びと課題が明確になるようにする。

《参考図書》

『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

《備考》

- ・実習中の体調管理に留意し、実習園の保育方針や保育内容等を十分理解して実習に望むこと。
- ・科目担当者は、実務経験者（幼稚園勤務歴あり）であり、実習先では実務経験者による指導を受ける。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-1幼児教育の方法を身につける	教育実習に必要な知識と心構えを学び、実習を通し自己の保育観を構築し保育者としての課題を見出すこと。
○ 2-2保育技術を身につける	教育実習に必要な保育技術を身に付け、子どもとの関わりや保育展開の中での的確に使えるようになること。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	
授業内課題	
その他()	100
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	幼稚園実習（4週間）	教育実習指導及び関連科目での学びを踏まえ、自己課題を明確にして実習に臨む。	実習日誌、指導案	90分
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《専門教育科目》

科目名	保育内容総論	科目ナンバリング	YY-S22029
担当者氏名	田井 敦子	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

保育所や幼稚園での子どもにふさわしい生活について基本的な考え方を学ぶ。
 保育実践を行ううえで基盤となる知識や技能の修得を目指す。
 今日の保育の課題を整理し、今後の保育の姿を展望し、実践する力につながる素地を培う。

《授業外学習》

・体験を通して学びが深まるよう、各実践の学びの課題を理解しておくこと。

《テキスト》

渡邊英則・大豆生田啓友編『新しい保育講座4 保育内容総論』ミネルヴァ書房、2020年

《学習状況・理解度の確認》

・授業内課題として小レポートを提出、返却し、授業の理解度を確認する。

《参考図書》

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び各解説書

《備考》

・科目担当者は、実務経験者（幼稚園勤務歴あり）である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-1幼児教育の方法を身につける	保育の基本と保育内容、今日の保育の課題について理解し、具体的な保育実践につながる基盤を培う。
○ 1-1子どもの発達を理解する力	子ども理解をもとに、保育のねらいを立てて保育展開が行われる過程を理解する。
○ 2-2保育技術を身につける	保育実践に必要な様々な技術や保育の方法を知る。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	70
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	10
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	保育内容とは何か①（保育内容の基本的な考え方）	保育及び保育内容の基本的な考え方を学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
2	保育内容とは何か②（保育内容の構造）	幼稚園・保育所・認定こども園の生活及び保育所保育指針、幼稚園教育要領等に示された保育内容について学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
3	保育内容の実践的理解（ねらい・内容）	入園当初の子どもの姿から「ねらい」及び「内容」について考える。指導案作成。	実践での学びの整理	45分
4	保育内容とは何か（ねらい・内容）	実践をもとに「ねらい」及び「内容」について学び、理解する。指導案作成。	プリント・資料の復習	45分
5	保育内容の実践的理解（遊びと保育内容）	わらべうたの楽しさを体験し、指導案を作成する。	実践での学びの整理	45分
6	保育内容とは何か（遊びと保育内容）	「初めてのお弁当（給食）」をどのように指導するか、食事の在り方や指導法について学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
7	保育内容の実践的理解（環境と保育内容）	木の葉から保育における「環境」について考える。また木の葉を使って様々な遊びに展開、発展させる。	実践での学びの整理	45分
8	保育内容とは何か（環境と保育内容）	実践をもとに、保育における「環境」と保育内容の関連について学び、理解する。	プリント・資料の復習	45分
9	保育内容とは何か（子どもの発達と保育内容）	子ども理解と保育内容の関連や保育記録の方法について学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
10	保育内容の実践的理解（指導計画の基本的理解）	指導計画の作成について基本的な事柄を学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
11	保育内容の実践的理解（部分保育指導案の作成）	模擬保育の保育指導案を作成する。	指導案作成と模擬保育準備	90分
12	保育内容の実践的理解（模擬保育Ⅰ）	模擬保育を行い、保育の振り返りと評価について学び、理解する。	模擬保育の振り返りと評価	45分
13	保育内容の実践的理解（模擬保育Ⅱ）	模擬保育を行い、保育の振り返りと評価について学び、理解する。	模擬保育の振り返りと評価	45分
14	保育内容とは何か（保育の現状と課題）	保育の今日的課題と求められる保育者の役割について保育内容の視点から学ぶ。	模擬保育の振り返りと評価	45分
15	テスト			60分

《専門教育科目》

科目名	保育内容総論	科目ナンバリング	YY-S22029
担当者氏名	田井 敦子	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

保育所や幼稚園での子どもにふさわしい生活について基本的な考え方を学ぶ。
 保育実践を行ううえで基盤となる知識や技能の修得を目指す。
 今日の保育の課題を整理し、今後の保育の姿を展望し、実践する力につながる素地を培う。

《授業外学習》

・体験を通して学びが深まるよう、各実践の学びの課題を理解しておくこと。

《テキスト》

渡邊英則・大豆生田啓友編『新しい保育講座4 保育内容総論』ミネルヴァ書房、2020年

《学習状況・理解度の確認》

・授業内課題として小レポートを提出、返却し、授業の理解度を確認する。

《参考図書》

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び各解説書

《備考》

・科目担当者は、実務経験者（幼稚園勤務歴あり）である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-1幼児教育の方法を身につける	保育の基本と保育内容、今日の保育の課題について理解し、具体的な保育実践につながる基盤を培う。
○ 1-1子どもの発達を理解する力	子ども理解をもとに、保育のねらいを立てて保育展開が行われる過程を理解する。
○ 2-2保育技術を身につける	保育実践に必要な様々な技術や保育の方法を知る。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	70
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	10
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	保育内容とは何か①（保育内容の基本的な考え方）	保育及び保育内容の基本的な考え方を学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
2	保育内容とは何か②（保育内容の構造）	幼稚園・保育所・認定こども園の生活及び保育所保育指針、幼稚園教育要領等に示された保育内容について学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
3	保育内容の実践的理解（ねらい・内容）	入園当初の子どもの姿から「ねらい」及び「内容」について考える。指導案作成。	実践での学びの整理	45分
4	保育内容とは何か（ねらい・内容）	実践をもとに「ねらい」及び「内容」について学び、理解する。指導案作成。	プリント・資料の復習	45分
5	保育内容の実践的理解（遊びと保育内容）	わらべうたの楽しさを体験し、指導案を作成する。	実践での学びの整理	45分
6	保育内容とは何か（遊びと保育内容）	「初めてのお弁当（給食）」をどのように指導するか、食事の在り方や指導法について学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
7	保育内容の実践的理解（環境と保育内容）	木の葉から保育における「環境」について考える。また木の葉を使って様々な遊びに展開、発展させる。	実践での学びの整理	45分
8	保育内容とは何か（環境と保育内容）	実践をもとに、保育における「環境」と保育内容の関連について学び、理解する。	プリント・資料の復習	45分
9	保育内容とは何か（子どもの発達と保育内容）	子ども理解と保育内容の関連や保育記録の方法について学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
10	保育内容の実践的理解（指導計画の基本的理解）	指導計画の作成について基本的な事柄を学ぶ。	プリント・資料の復習	45分
11	保育内容の実践的理解（部分保育指導案の作成）	模擬保育の保育指導案を作成する。	指導案作成と模擬保育準備	90分
12	保育内容の実践的理解（模擬保育Ⅰ）	模擬保育を行い、保育の振り返りと評価について学び、理解する。	模擬保育の振り返りと評価	45分
13	保育内容の実践的理解（模擬保育Ⅱ）	模擬保育を行い、保育の振り返りと評価について学び、理解する。	模擬保育の振り返りと評価	45分
14	保育内容とは何か（保育の現状と課題）	保育の今日的課題と求められる保育者の役割について保育内容の視点から学ぶ。	模擬保育の振り返りと評価	45分
15	テスト			60分

《専門教育科目》

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		科目ナンバリング	YY-S24030
担当者氏名	礪野 久美子		担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選択
			開講年次・開講期	4 年 ・ II 期

《授業の概要》

履修カルテや実習ノート等を通して保育所実習、幼稚園実習を振り返り、総括するとともに、保育者として必要な知識、技能等の習得について確認し、自らの課題を自覚することを目的とします。具体的には、現場実践者の講話やフィールドワーク、グループ討議、事例研究等を取り入れ、授業を展開します。

《授業外学習》

保育・教職に向けての仕上げであることを意識し、これまでの学習内容を復習しておき、各授業に課題をもって臨むようにすること。

《テキスト》

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び各指導書

《学習状況・理解度の確認》

授業での学びは出来る限り文字化し、履修カルテとして整理していくことで自らの学びが確認できるようにする。

《参考図書》

《備考》

・本科履修までに、保育実習または教育実習のいずれかの単位を修得済みであること。・原則として、欠席は認められない。・担当者は、幼稚園教諭として幼稚園勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-1幼児教育の方法を身につける	4年間の学修や実習を通して身に付けた資質・能力が保育・教職での実践的指導力に繋がることの最終確認する。
○ 2-2保育技術を身につける	保育実践に必要な技術の到達度を確認し、保育技術の向上を目指して努力する。
○ 2-3多様な子どもの発達を支援できる	多様な子どもの育ちを支えることの意義や理念を再確認し、保育者としての使命感を養う。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	30
授業内課題	50
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	学修の振り返り、自己の課題の明確化①	授業の目的・計画を理解し、これまでの学びの振り返りから自己の課題を整理する。	4年間の履修カルテをまとめてお	60分
2	学修の振り返り、自己の課題の明確化②	履修カルテをもとに、自己の課題を整理し、求められる保育者像について検討する。	4年間の履修カルテをまとめてお	60分
3	講話①「教育委員会」	教職の意義や保育者の役割、職務内容について学ぶ。	講話内容のまとめ	60分
4	グループワークと発表①	講話①をもとに、グループ討議を行い、自己の課題を明確にする。	自己課題整理	60分
5	講話②「幼児理解と保護者対応」	附属幼稚園での取り組みや子どもの現状、保護者対応について学ぶ。	講話内容のまとめ	60分
6	グループワークと発表②	講話②をもとに、グループ討議を行い、自己の課題を明確にする。	自己課題整理	60分
7	講話③「児童養護施設での取り組み」	児童養護施設の役割や課題について学ぶ。	講話内容のまとめ	60分
8	グループワークと発表③	講話③をもとに、グループ討議を行い、自己の課題を明確にする。	自己課題整理	60分
9	講話④「幼児教育におけるICTの活用」	保育所や幼稚園等での取り組みや子どもの現状について学ぶ。	講話内容のまとめ	60分
10	グループワークと発表④	講話④をもとに、グループ討議を行い、自己の課題を明確にする。	自己課題整理	60分
11	保育実践の事例研究①	グループワークを行う。	研究内容のまとめ	60分
12	保育実践の事例研究②	グループワークを行う。	研究内容のまとめ	60分
13	保育実践の事例研究③	グループワークを行う。	研究内容のまとめ	60分
14	学びの振り返り（小テスト）	学習内容の理解について小テストを通じて確認する。	講義内容のまとめ	60分
15	まとめ	自己課題をもとに、これまでの学びを振り返る。	学びの振り返りとファイリング	60分

《専門教育科目》

科目名	こどもと音楽Ⅱ	科目ナンバリング	YY-S21016
担当者氏名	立本 十寿子・中條 裕子・西本 由香・前北 恵美・津田 安紀子・佐藤 亜衣・松岡 祐子	担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

受講生個人の進度状況に応じて、保育現場で必要とされるピアノ演奏技能を身につける。

《授業外学習》

ピアノ学習で一番大切なことは、日々の練習の積み重ねである。反復練習を十分に行い、レパートリーを広げていく。

《テキスト》

・保育のための歌と遊び こどもの世界/尾林裕美子/ドレミ楽譜出版社/2013 ・劇遊びのための曲集/矢田部宏/ひかりのくに

《学習状況・理解度の確認》

質問や補講レッスンはオフィスアワーで受け付ける。

《参考図書》

《備考》

Children and music II

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-2保育技術を身につける	楽譜に書かれてあることを理解し、ピアノの演奏技術を身に付けることができる。
◎ 2-2保育技術を身につける	コードネームによる双方や、メロディーと伴奏による演奏ができる。
○ 2-1幼児教育の方法を身につける	保育現場で使用されている曲や、その他の曲を弾くことができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	80
授業内課題	20
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン (1)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (1)	技能の練習	120分
2	ピアノ個人レッスン (2)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (2)	技能の練習	120分
3	ピアノ個人レッスン (3)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (3)	技能の練習	120分
4	ピアノ個人レッスン (4)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (4)	技能の練習	120分
5	ピアノ個人レッスン (5)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (5)	技能の練習	120分
6	ピアノ個人レッスン (6)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (6)	技能の練習	120分
7	中間発表会	個人の技能の発表	技能の練習	120分
8	ピアノ個人レッスン (7)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (7)	技能の練習	120分
9	ピアノ個人レッスン (8)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (8)	技能の練習	120分
10	ピアノ個人レッスン (9)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (9)	技能の練習	120分
11	ピアノ個人レッスン (10)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (10)	技能の練習	120分
12	ピアノ個人レッスン (11)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (11)	技能の練習	120分
13	ピアノ個人レッスン (12)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (12)	技能の練習	120分
14	ピアノ個人レッスン (13)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (13)	技能の練習	120分
15	期末発表会	個人の技能の発表	技能の練習	120分

《専門教育科目》

科目名	こどもと音楽Ⅱ	科目ナンバリング	YY-S21016
担当者氏名	立本 十寿子・中條 裕子・西本 由香・前北 恵美・津田 安紀子・佐藤 亜衣・松岡 祐子	担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

受講生個人の進度状況に応じて、保育現場で必要とされるピアノ演奏技能を身につける。

《授業外学習》

ピアノ学習で一番大切なことは、日々の練習の積み重ねである。反復練習を十分に行い、レパートリーを広げていく。

《テキスト》

・保育のための歌と遊び こどもの世界/尾林裕美子/ドレミ楽譜出版社/2013 ・劇遊びのための曲集/矢田部宏/ひかりのくに

《学習状況・理解度の確認》

質問や補講レッスンはオフィスアワーで受け付ける。

《参考図書》

《備考》

Children and music II

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-2保育技術を身につける	楽譜に書かれてあることを理解し、ピアノの演奏技術を身に付けることができる。
◎ 2-2保育技術を身につける	コードネームによる双方や、メロディーと伴奏による演奏ができる。
○ 2-1幼児教育の方法を身につける	保育現場で使用されている曲や、その他の曲を弾くことができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	80
授業内課題	20
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン (1)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (1)	技能の練習	120分
2	ピアノ個人レッスン (2)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (2)	技能の練習	120分
3	ピアノ個人レッスン (3)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (3)	技能の練習	120分
4	ピアノ個人レッスン (4)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (4)	技能の練習	120分
5	ピアノ個人レッスン (5)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (5)	技能の練習	120分
6	ピアノ個人レッスン (6)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (6)	技能の練習	120分
7	中間発表会	個人の技能の発表	技能の練習	120分
8	ピアノ個人レッスン (7)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (7)	技能の練習	120分
9	ピアノ個人レッスン (8)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (8)	技能の練習	120分
10	ピアノ個人レッスン (9)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (9)	技能の練習	120分
11	ピアノ個人レッスン (10)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (10)	技能の練習	120分
12	ピアノ個人レッスン (11)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (11)	技能の練習	120分
13	ピアノ個人レッスン (12)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (12)	技能の練習	120分
14	ピアノ個人レッスン (13)	学生個人のピアノ演奏能力に考慮したレッスン (13)	技能の練習	120分
15	期末発表会	個人の技能の発表	技能の練習	120分

《専門教育科目》

科目名	こどもと音楽Ⅲ	科目ナンバリング	YY-S23017
担当者氏名	立本 十寿子・中條 裕子・西本 由香・前北 恵美・津田 安紀子・佐藤 亜衣・松岡 祐子	担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	3 年 ・ I 期

《授業の概要》

本科目では、これまでの授業で学んだピアノ演奏技能の基礎を更に高め、子ども教育現場におけるあらゆる場面で使えるように、個々の進捗状況に合わせて、レパートリーの幅を広げていく。

《授業外学習》

ピアノ学習で一番大切なことは、日々の練習の積み重ねである。反復練習を十分に行い、レパートリーを広げていく。

《テキスト》

・保育のための歌と遊び こどもの世界/尾林裕美子/ドレミ楽譜出版社/2013 ・劇あそびのための曲集/矢田部宏/ひかりのくに

《学習状況・理解度の確認》

・質問や補講レッスン等は、オフィスアワーで受け付ける。

《参考図書》

その他楽譜等は、必要に応じて指示・配布する。

《備考》

Children and musicⅢ ML室及びレッスン室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-1子どもの発達を理解する力	保育者を目指す者としての必要なピアノ演奏能力を身につけることができる。
2-1幼児教育の方法を身につける	楽譜から音楽的な様々な事柄を読み取ることができる。
◎ 2-2保育技術を身につける	現場での行事等に使用できる楽曲を弾くことができる。
2-2保育技術を身につける	様々なリズムの知識と、それを表現する曲を演奏できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	80
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	I期授業内容の説明及びピアノ個人レッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(1)	技能の練習	120分
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(2)	技能の練習	120分
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(3)	技能の練習	120分
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(4)	技能の練習	120分
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(5)	技能の練習	120分
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(6)	技能の練習	120分
7	中間発表会	個人演奏発表	技能の練習	120分
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(7)	技能の練習	120分
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(8)	技能の練習	120分
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(9)	技能の練習	120分
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(10)	技能の練習	120分
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(11)	技能の練習	120分
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(12)	技能の練習	120分
14	研究発表会	個人演奏発表	技能の練習	120分
15	総まとめ	「こどもと音楽Ⅲ」の総まとめ	技能の練習	120分

《専門教育科目》

科目名	こどもと音楽Ⅲ	科目ナンバリング	YY-S23017
担当者氏名	立本 十寿子・中條 裕子・西本 由香・前北 恵美・津田 安紀子・佐藤 亜衣・松岡 祐子	担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	3 年 ・ I 期

《授業の概要》

本科目では、これまでの授業で学んだピアノ演奏技能の基礎を更に高め、子ども教育現場におけるあらゆる場面で使えるように、個々の進捗状況に合わせて、レパートリーの幅を広げていく。

《授業外学習》

ピアノ学習で一番大切なことは、日々の練習の積み重ねである。反復練習を十分に行い、レパートリーを広げていく。

《テキスト》

・保育のための歌と遊び こどもの世界/尾林裕美子/ドレミ楽譜出版社/2013 ・劇あそびのための曲集/矢田部宏/ひかりのくに

《学習状況・理解度の確認》

・質問や補講レッスン等は、オフィスアワーで受け付ける。

《参考図書》

その他楽譜等は、必要に応じて指示・配布する。

《備考》

Children and musicⅢ ML室及びレッスン室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-1子どもの発達を理解する力	保育者を目指す者としての必要なピアノ演奏能力を身につけることができる。
2-1幼児教育の方法を身につける	楽譜から音楽的な様々な事柄を読み取ることができる。
◎ 2-2保育技術を身につける	現場での行事等に使用できる楽曲を弾くことができる。
2-2保育技術を身につける	様々なリズムの知識と、それを表現する曲を演奏できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	80
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	I期授業内容の説明及びピアノ個人レッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(1)	技能の練習	120分
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(2)	技能の練習	120分
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(3)	技能の練習	120分
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(4)	技能の練習	120分
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(5)	技能の練習	120分
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(6)	技能の練習	120分
7	中間発表会	個人演奏発表	技能の練習	120分
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(7)	技能の練習	120分
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(8)	技能の練習	120分
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(9)	技能の練習	120分
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(10)	技能の練習	120分
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(11)	技能の練習	120分
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン(12)	技能の練習	120分
14	研究発表会	個人演奏発表	技能の練習	120分
15	総まとめ	「こどもと音楽Ⅲ」の総まとめ	技能の練習	120分

《専門教育科目》

科目名	こどもと音楽Ⅳ	科目ナンバリング	YY-S24018
担当者氏名	立本 十寿子・中條 裕子・西本 由香・前北 恵美・津田 安紀子・佐藤 亜衣・松岡 祐子	担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	4 年 ・ I 期

《授業の概要》

本科目では、これまで学んだピアノ演奏技能の基礎を更に高め、教育現場におけるあらゆる場面で使えるように、個々の進捗状況に合わせて、レパートリーの幅を広げていく。

《授業外学習》

ピアノ学習で一番大切なことは、日々の練習の積み重ねである。反復練習を十分に行い、レパートリーを広げていく。

《テキスト》

個々人のピアノ技能に応じた課題を与える。

《学習状況・理解度の確認》

質問や補講レッスン等は、オフィスアワーで受け付ける。

《参考図書》

必要に応じて指示・配布する。

《備考》

ML教室及びレッスン室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-1子どもの発達を理解する力	保育者を目指す者としての必要なピアノ演奏能力を身につけることができる。
2-1幼児教育の方法を身につける	楽譜から音楽的な様々な事柄を読み取ることができる。
◎ 2-2保育技術を身につける	現場での行事等に使用できる楽曲を弾くことができる。
2-2保育技術を身につける	様々なリズムの知識と、それを表現する曲を演奏できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	80
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン (1)	授業内容の説明及びピアノ個人レッスン担当教員の紹介 学生の個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン (1)	技能の練習	120分
2	ピアノ個人レッスン (2)	学生の個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン (2)	技能の練習	120分
3	ピアノ個人レッスン (3)	学生の個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン (3)	技能の練習	120分
4	ピアノ個人レッスン (4)	学生の個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン (4)	技能の練習	120分
5	ピアノ個人レッスン (5)	学生の個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン (5)	技能の練習	120分
6	ピアノ個人レッスン (6)	学生の個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン (6)	技能の練習	120分
7	中間発表	中間発表	技能の練習	120分
8	ピアノ個人レッスン (7)	学生の個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン (7)	技能の練習	120分
9	ピアノ個人レッスン (8)	学生の個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン (8)	技能の練習	120分
10	ピアノ個人レッスン (9)	学生の個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン (9)	技能の練習	120分
11	ピアノ個人レッスン (10)	学生の個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン (10)	技能の練習	120分
12	ピアノ個人レッスン (11)	学生の個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン (11)	技能の練習	120分
13	ピアノ個人レッスン (12)	学生の個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン (12)	技能の練習	120分
14	研究発表	個人演奏発表	技能の練習	120分
15	総まとめ	総まとめ	技能の練習	120分

《専門教育科目》

科目名	こどもと造形Ⅱ	科目ナンバリング	YY-S21020
担当者氏名	満田 知美	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

造形あそびをする時、人間は生活していくために必要な行動が自然に組み込まれている。穴を開ける、縫う、編む、織る、切る、貼る、並べる、繋ぐ、組み立てる、こねる、包む、描く。子供はこれらの事を遊びを通して行う。この様な活動の繰り返しの中で『形のなりたち』を体験することができる。園で開催される行事や展示立体作品を中心にイベント企画を提案する。

《授業外学習》

予習方法。毎回使用する素材や材料について研究、収集をする。復習の方法。授業内容を再確認し、疑問点がある場合は随時答える。

《テキスト》

時間毎に計画書と参考資料を配付する。

《学習状況・理解度の確認》

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《参考図書》

イタリア:レジオ・エミリア市の幼児教育実践録『子どもたちの100の言葉』(学研)

《備考》

授業のはじめに出席をとります。その後時間毎の資料に基づき説明に入ります。こどもと造形Ⅱ Children and modeling II

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-2保育技術を身につける	オリジナルの紙を作る(集める、並べる)
○ 1-1子どもの発達を理解する力	立体作品の玩具を作る(組み合わせる、重ねる)
	ダンボール、布、缶、プラスチックで壁面や展示作品を作る(組み換える、生かす)

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	
授業内課題	100
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	シラバス、課題、材料、道具の説明。アンケート	授業の内容の整理	45分
2	造形遊び 集める、並べる 1	エリックカールの技法。紙の引き出し制作を通して自由な色の作り方とマチュールについて学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
3	造形遊び 集める、並べる 1	エリックカールの技法。模写作品を通して色の組み合わせについて学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
4	造形遊び 集める、並べる 2	粘土でミニチュアクッキング。food作りを通してリアルな形状について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
5	造形遊び 集める、並べる 2	粘土でミニチュアクッキング。盛りつけ、ストラップ制作を通して食育の知識と身につける作品の楽しみ方について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
6	造形遊び 集める、並べる 3	チャボンの風鈴。プラスチックに素材を活かし、その中に入れるサプライズ内容を企画する楽しみ方について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
7	造形遊び 組み合わせる、重ねる 1	立体ワンコ。型紙切断、組み立て。ダンボール、定規、カッターナイフを正確に使用し寸法通りに立体作品に仕上げる力を身につける。	使用材料、道具の収集。テーマ決定	45分
8	造形遊び 組み合わせる、重ねる 2	立体ワンコ。組み立て、張り作業。繰り返し作業をしながら同時に集中力と達成感を伝える言葉がけについて学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
9	造形遊び 組み合わせる、重ねる 3	立体ワンコ。ジェッソ塗り、下図犬制作。段ボールの強化のための下地作りをしながら完成された下図(エスキス)を仕上げる。	使用材料、道具の収集	45分
10	造形遊び 組み合わせる、重ねる 4	立体ワンコ。本塗り。着色計画、下塗りの制作をしつつ装飾部品の準備をし完成のイメージと作業時間のプランについて学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
11	造形遊び 組み合わせる、重ねる 5	立体ワンコ。本塗り。下図通りの作品に仕上げる力を身につける。イメージ通りにならなかった部分のアドバイスと応用の仕方について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
12	造形遊び 組み換える、生かす 1	カンカン宝箱。のり、薄紙、ニスを使用しデコパージュ技法について学ぶ。缶の周りに貼る紙によりテーマに変化を持たせる事ができる。	使用材料、道具の収集	45分
13	造形遊び 組み換える、生かす 2	お昼ねテント&ふりふりフラッグ。リメイクをテーマに着れなくなったシャツを基底材にし柔らかい素材を貼る。知育素材について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
14	遠足、ピクニック企画	全作品完成チェック後、3種類の作品を持ち出し学内の園庭に出かけ自然物を拓い風や光を感じながら作品と過ごす。	授業の内容の整理	45分
15	Ⅱ期の学びのふりかえり	Ⅱ期に学んだことをもとにピクニック企画案と授業計画を作る。	授業の内容の整理	45分

《専門教育科目》

科目名	こどもと造形Ⅱ	科目ナンバリング	YY-S21020
担当者氏名	満田 知美	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

造形あそびをする時、人間は生活していくために必要な行動が自然に組み込まれている。穴を開ける、縫う、編む、織る、切る、貼る、並べる、繋ぐ、組み立てる、こねる、包む、描く。子供はこれらの事を遊びを通して行う。この様な活動の繰り返しの中で『形のなりたち』を体験することができる。園で開催される行事や展示立体作品を中心にイベント企画を提案する。

《授業外学習》

予習方法。毎回使用する素材や材料について研究、収集をする。復習の方法。授業内容を再確認し、疑問点がある場合は随時答える。

《テキスト》

時間毎に計画書と参考資料を配付する。

《学習状況・理解度の確認》

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《参考図書》

イタリア:レジオ・エミリア市の幼児教育実践録『子どもたちの100の言葉』(学研)

《備考》

授業のはじめに出席をとります。その後時間毎の資料に基づき説明に入ります。こどもと造形Ⅱ Children and modeling II

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-2保育技術を身につける	オリジナルの紙を作る(集める、並べる)
○ 1-1子どもの発達を理解する力	粘土で記念品を作る(組み合わせる、重ねる)
	ダンボール、布、缶、プラスチックで壁面や展示作品を作る(組み換える、生かす)

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	
授業内課題	100
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	シラバス、課題、材料、道具の説明。アンケート	授業の内容の整理	45分
2	造形遊び 集める、並べる 1	エリックカールの技法。紙の引き出し制作を通して自由な色の作り方とマチュールについて学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
3	造形遊び 集める、並べる 1	エリックカールの技法。模写作品を通して色の組み合わせについて学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
4	造形遊び 集める、並べる 2	粘土でミニチュアクッキング。food作りを通してリアルな形状について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
5	造形遊び 集める、並べる 2	粘土でミニチュアクッキング。盛りつけ、ストラップ制作を通して食育の知識と身につける作品の楽しみ方について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
6	造形遊び 集める、並べる 3	チャボンの風鈴。プラスチックに素材を活かし、その中に入れるサプライズ内容を企画する楽しみ方について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
7	造形遊び 組み合わせる、重ねる 1	立体ワンコ。型紙切断、組み立て。ダンボール、定規、カッターナイフを正確に使用し寸法通りに立体作品に仕上げる力を身につける。	使用材料、道具の収集。テーマ	45分
8	造形遊び 組み合わせる、重ねる 2	立体ワンコ。組み立て、張り作業。繰り返し作業をしながら同時に集中力と達成感を伝える言葉がけについて学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
9	造形遊び 組み合わせる、重ねる 3	立体ワンコ。ジェッソ塗り、下図犬制作。段ボールの強化のための下地作りをしながら完成された下図(エスキス)を仕上げる。	使用材料、道具の収集	45分
10	造形遊び 組み合わせる、重ねる 4	立体ワンコ。本塗り。着色計画、下塗りの制作をしつつ装飾部品の準備をし完成のイメージと作業時間のプランについて学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
11	造形遊び 組み合わせる、重ねる 5	立体ワンコ。本塗り。下図通りの作品に仕上げる力を身につける。イメージ通りにならなかった部分のアドバイスと応用の仕方について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
12	造形遊び 組み換える、生かす 1	カンカン宝箱。のり、薄紙、ニスを使用しデコパージュ技法について学ぶ。缶の周りに貼る紙によりテーマに変化を持たせる事ができる。	使用材料、道具の収集	45分
13	造形遊び 組み換える、生かす 2	お昼ねテント&ふりふりフラッグ。リメイクをテーマに着れなくなったシャツを基底材にし柔らかい素材を貼る。知育素材について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
14	遠足、ピクニック企画	全作品完成チェック後、3種類の作品を持ち出し学内の園庭に出かけ自然物を拓い風や光を感じながら作品と過ごす。	授業の内容の整理	45分
15	Ⅱ期の学びのふりかえり	Ⅱ期に学んだことをもとにピクニック企画案と授業計画を作る。	授業の内容の整理	45分

《専門教育科目》

科目名	こどもと造形Ⅲ	科目ナンバリング	YY-S23021
担当者氏名	満田 知美	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 必修
		開講年次・開講期	3 年 ・ I 期

《授業の概要》

造形Ⅰ・Ⅱの内容を踏まえ、こどもの教育にとって共通する「表現すること」の意味や本質を根幹にして造形教育ごとに定めた制作を行う。保育・教育・造形遊びの実践・芸術の各領域で捉えられるアートの概念を総合的に理解し保育現場で実践できるスキルを身につける。

《授業外学習》

予習方法。毎回使用する素材や材料について研究、収集をする。復習の方法。授業内容を再確認し、疑問点がある場合は随時答える。

《テキスト》

時間毎に計画書と参考資料を配付する。

《学習状況・理解度の確認》

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《参考図書》

造形表現・図画工作 (KENPAKUSHA)

《備考》

授業のはじめに出席をとります。その後時間毎の資料に基づき説明に入ります。こどもと造形Ⅲ Children and modeling Ⅲ

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-1子どもの発達を理解する力	育ちを踏まえた内容を制作を通して学ぶ。
○ 2-1幼児教育の方法を身につける	実践に必要な基礎知識（道具、方法、美術文化）を整理する。
◎ 2-2保育技術を身につける	現場において実用的に活用できる専門知識を体得する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	10
授業内課題	90
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	シラバス、課題、材料、道具の説明。	授業の内容の整理	45分
2	材料を軸とした造形活動 1	つづきの国の地図づくり：年齢に応じた材料を比較しながらクレパス、絵の具、色鉛筆、チョークなどモチーフに合わせた選択について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
3	材料を軸とした造形活動 2	描画材について/木：年齢に応じた材料を比較しながらクレパス、色鉛筆、チョークなどモチーフに合わせた選択について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
4	材料を軸とした造形活動 3	紙について/はらぺこあおむし：新聞紙、ダンボール、画用紙、折り紙、空き箱などテーマに合わせた選択について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
5	材料を軸とした造形活動 3	紙について/はらぺこあおむし：4回目に制作した作品を使いクラスでワークショップを行う。	使用材料、道具の収集	45分
6	材料を軸とした造形活動 4	身近な素材について/グルグルドール：不思議な生き物を作る。紙コップや紙皿を使い動く動物や人間を作りごっこ遊びに繋げる方法を学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
7	イメージをもとにした造形活動 1	平面表現①いろいろな色の本：色彩と表現/3原色、白、黒を使い五感を使ったフィンガーペインティング作品を制作し混色について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
8	イメージをもとにした造形活動 2	平面表現②7回目に制作した作品を使いクラスでワークショップを行う。	使用材料、道具の収集	45分
9	イメージをもとにした造形活動 3	平面表現③：等身大の人物画を描く。骨格や関節、皮膚の仕組みを理解しその上に衣類を描く順番について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
10	イメージをもとにした造形活動 4	立体表現①ぶかぶかクジラ：不思議な生き物を作る。ペットボトルを使い動く動物や人間を作りごっこ遊びに繋げる方法を学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
11	イメージをもとにした造形活動 5	立体表現②砂のフォトフレーム：自然素材と人工素材を組み合わせて遊べ玩具を作る。	使用材料、道具の収集	45分
12	イメージをもとにした造形活動 6	立体表現③コロコロゲーム：木による表現。枝やどんぐり、松ぼっくりなどを使いコロコロゲームを作る。完成後遊び方について発表する。	使用材料、道具の収集	45分
13	イメージをもとにした造形活動 6	立体表現③コロコロゲーム：木による表現。枝やどんぐりなどを使いコロコロゲームを作る。完成後遊び方について発表する。造形遊び。	使用材料、道具の収集	45分
14	文化的領域と表現の広がり	マイ・アート・スペース：制作した全作品を机に並べレイアウトについて学びます。一人一人のスペースから空間全体へと作り上げます。	使用材料、道具の収集	45分
15	I期の学びのふりかえり	I期に学んだことをもとに導入、声かけ、まとめ方について整理する。レポート提出。	授業の内容の整理	45分

《専門教育科目》

科目名	こどもと造形Ⅲ	科目ナンバリング	YY-S23021
担当者氏名	満田 知美	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 必修
		開講年次・開講期	3 年 ・ I 期

《授業の概要》

造形Ⅰ・Ⅱの内容を踏まえ、こどもの教育にとって共通する「表現すること」の意味や本質を根幹にして造形教育ごとに定じた制作を行う。保育・教育・造形遊びの実践・芸術の各領域で捉えられるアートの概念を総合的に理解し保育現場で実践できるスキルを身につける。

《授業外学習》

予習方法。毎回使用する素材や材料について研究、収集をする。復習の方法。授業内容を再確認し、疑問点がある場合は随時答える。

《テキスト》

時間毎に計画書と参考資料を配付する。

《学習状況・理解度の確認》

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《参考図書》

造形表現・図画工作 (KENPAKUSHA)

《備考》

授業のはじめに出席をとります。その後時間毎の資料に基づき説明に入ります。こどもと造形Ⅲ Children and modeling Ⅲ

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-1子どもの発達を理解する力	育ちを踏まえた内容を制作を通して学ぶ。
○ 2-1幼児教育の方法を身につける	実践に必要な基礎知識（道具、方法、美術文化）を整理する。
◎ 2-2保育技術を身につける	現場において実用的に活用できる専門知識を体得する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	10
授業内課題	90
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	シラバス、課題、材料、道具の説明。	授業の内容の整理	45分
2	材料を軸とした造形活動 1	つづきの国の地図づくり：年齢に応じた材料を比較しながらクレパス、絵の具、色鉛筆、チョークなどモチーフに合わせた選択について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
3	材料を軸とした造形活動 2	描画材について/木：年齢に応じた材料を比較しながらクレパス、色鉛筆、チョークなどモチーフに合わせた選択について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
4	材料を軸とした造形活動 3	紙について/はらぺこあおむし：新聞紙、ダンボール、画用紙、折り紙、空き箱などテーマに合わせた選択について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
5	材料を軸とした造形活動 3	紙について/はらぺこあおむし：4回目に制作した作品を使いクラスでワークショップを行う。	使用材料、道具の収集	45分
6	材料を軸とした造形活動 4	身近な素材について/グルグルドール：不思議な生き物を作る。紙コップや紙皿を使い動く動物や人間を作りごっこ遊びに繋げる方法を学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
7	イメージをもとにした造形活動 1	平面表現①いろいろな色の本：色彩と表現/3原色、白、黒を使い五感を使ったフィンガーペインティング作品を制作し混色について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
8	イメージをもとにした造形活動 2	平面表現②7回目に制作した作品を使いクラスでワークショップを行う。	使用材料、道具の収集	45分
9	イメージをもとにした造形活動 3	平面表現③：等身大の人物画を描く。骨格や関節、皮膚の仕組みを理解しその上に衣類を描く順番について学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
10	イメージをもとにした造形活動 4	立体表現①ぶかぶかクジラ：不思議な生き物を作る。ペットボトルを使い動く動物や人間を作りごっこ遊びに繋げる方法を学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
11	イメージをもとにした造形活動 5	立体表現②砂のフォトフレーム：自然素材と人工素材を組み合わせて遊べ玩具を作る。	使用材料、道具の収集	45分
12	イメージをもとにした造形活動 6	立体表現③コロコロゲーム：木による表現。枝やどんぐり、松ぼっくりなどを使いコロコロゲームを作る。完成後遊び方について発表する。	使用材料、道具の収集	45分
13	イメージをもとにした造形活動 6	立体表現③コロコロゲーム：木による表現。枝やどんぐりなどを使いコロコロゲームを作る。完成後遊び方について発表する。造形遊び。	使用材料、道具の収集	45分
14	文化的領域と表現の広がり	マイ・アート・スペース：制作した全作品を机に並べレイアウトについて学びます。一人一人のスペースから空間全体へと作り上げます。	使用材料、道具の収集	45分
15	I 期の学びのふりかえり	I 期に学んだことをもとに導入、声かけ、まとめ方について整理する。レポート提出。	授業の内容の整理	45分

《専門教育科目》

科目名	こどもと造形Ⅳ	科目ナンバリング	YY-S24022
担当者氏名	満田 知美	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	4 年 ・ I 期

《授業の概要》

造形Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの内容を踏まえワークショップの実践を行う。造形遊びが子どもたちとのコミュニケーションを前提とした先生からのメッセージが込められているが重要である。はじめに子どもを観察し問うべき題材テーマ設定をしなければならない。視点をかえ、変化を楽しみ、見えないものを表現することにより新しい世界を生み出すきっかけを作り出す方法について学びます。

《授業外学習》

予習方法。毎回使用する素材や材料について研究、収集をする。復習の方法。授業内容を再確認し、疑問点がある場合は随時答える。

《テキスト》

時間毎に計画書と参考資料を配付する。

《学習状況・理解度の確認》

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《参考図書》

造形表現・図画工作 (KENPAKUSHA)

《備考》

授業のはじめに出席をとります。その後時間毎の資料に基づき説明に入ります。こどもと造形Ⅳ Children and modeling Ⅳ

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-1子どもの発達を理解する力	造形遊びを学ぶ園児と現場の先生のための実用的な事例について視野を広げる。
○ 2-1幼児教育の方法を身につける	時代や地域に対応した教材事例を体得し応用する力を身につける。
◎ 2-2保育技術を身につける	

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	10
授業内課題	90
その他 ()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	シラバス、課題、材料、道具の説明。	授業の内容の整理	45分
2	ワークショップ1	空き箱で作る！はこはこトーテムポール/ユニークな顔の箱がいっぱい。グラグラ、ゆらゆら積み上げてにぎやかなトーテムポールを作る。	使用材料、道具の収集	45分
3	ワークショップ1	空き箱で作る！2回目の作品を使い造形遊びにつながるワークショップを行う。	使用材料、道具の収集	45分
4	ワークショップ2	やさいばたけを作ろう/ずらりと並んだいろんな野菜の畑。葉と根をカードに描き土の部分を箱に埋め込む企画内容。	使用材料、道具の収集	45分
5	ワークショップ2	やさいばたけを作ろう/ずらりと並んだいろんな野菜の畑。葉と根をカードに描き土の部分を箱に埋め込む企画内容。造形遊び。	使用材料、道具の収集	45分
6	ワークショップ3	クレヨン画の基礎と応用。自由自在にモチーフを描くテクニックについて学ぶ。	使用材料、道具の収集	45分
7	ワークショップ3	クレヨン画の基礎と応用。自由自在にモチーフを描くテクニックについて学ぶ。自由画制作。	使用材料、道具の収集	45分
8	ワークショップ4	なりきりお面を作ろう/名前、性格、特徴にこだわり連想する人物のお面を作る。偶然が生み出す組み合わせを楽しむ企画内容。	使用材料、道具の収集	45分
9	ワークショップ4	なりきりお面を作ろう/名前、性格、特徴にこだわり連想する人物のお面を作る。偶然が生み出す組み合わせを楽しむ企画内容。造形遊び。	使用材料、道具の収集	45分
10	ワークショップ5	幼児画展の鑑賞と絵の見方。ギャラリートーク。	使用材料、道具の収集	45分
11	ワークショップ6	レンジャーキット/普通はバッグとして使い悪役が現れたらバッグからなかみ出して頭にかぶります。ヒーローに大変身する。	使用材料、道具の収集	45分
12	ワークショップ6	レンジャーキット/普通はバッグとして使い悪役が現れたらバッグからなかみ出して頭にかぶります。ヒーローに大変身する。造形遊び。	使用材料、道具の収集	45分
13	ワークショップ7	全作品を使った動画撮影の準備、配役決め、シナリオ制作を行い集大成として記録に残す。	使用材料、道具の収集	45分
14	ワークショップ7	全作品を使った動画撮影の準備、配役決め、シナリオ制作を行い集大成として記録に残す。	使用材料、道具の収集	45分
15	Ⅱ期の学びのふりかえり	Ⅱ期に学んだところをもと生活発表会を想定した指導案を作る。	授業の内容の整理	45分

《専門教育科目》

科目名	こどもと運動 I	科目ナンバリング	YY-S12023
担当者氏名	三宅 一郎	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 必修
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

演習科目である為理論と実践を結びつけながら進める。子どもの理解を深め実践能力をより高める意味で附属加古川幼稚園の子どもを観察をしたり接する機会を持つ。幼児期の発育発達段階に応じた運動遊びを理解し、正しい実践方法や援助方法の能力を養う。

《授業外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認の為にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《学習状況・理解度の確認》

毎時間の学習内容をノートに記録すると共に、課題についてまとめる。質問等は、ノートまたは毎時間の終了前時間に対応する。

《参考図書》

『運動発達の科学 ～幼児の運動発達を考える～』三宅一郎（大阪教育図書）『幼児の運動発達学』小林寛道（ミネルヴァ書房）『幼児の有酸素性能力の発達』吉澤茂弘著（杏林書院）

《備考》

保育者として、乳幼児期における運動遊びの必要な知識や援助方法を身につけて欲しい。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-2子どもの心身の状態を把握する力	子ども達を理解し、それぞれの子どもに応じて対応できる能力を身につける。
◎	2-2保育技術を身につける	発育発達レベルに応じた運動遊びを援助する。援助経験を繰り返し、適切な運動遊びの実践方法を習得する。
○	3-4地域の子育て支援に貢献する力	乳幼児期の発育発達レベルを理解し、幅広い年代の子どもに伝わる能力を養う。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	20
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	20
授業内課題	20
その他()	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する	学びたい内容	45分
2	移動系運動（1）	移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ	学習した内容確認と課題発見	45分
3	移動系運動（2）	移動系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際	学習した内容確認と課題発見	45分
4	操作系運動（1）	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ	学習した内容確認と課題発見	45分
5	操作系運動（2）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際①	学習した内容確認と課題発見	45分
6	操作系運動（3）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際②	学習した内容確認と課題発見	45分
7	非移動運動（1）	非移動運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ	学習した内容確認と課題発見	45分
8	非移動運動（2）	非移動運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際	学習した内容確認と課題発見	45分
9	対人ゲーム	対人におけるルール遊びの方法と実践	学習した内容確認と課題発見	45分
10	集団ゲーム（1）	集団におけるルール遊びの方法と実践①	学習した内容確認と課題発見	45分
11	集団ゲーム（2）	集団におけるルール遊びの方法と実践②	学習した内容確認と課題発見	45分
12	年代に応じた運動遊び（1）	3歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点	学習した内容確認と課題発見	45分
13	年代に応じた運動遊び（2）	4歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点	学習した内容確認と課題発見	45分
14	年代に応じた運動遊び（3）	5歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点	学習した内容確認と課題発見	45分
15	まとめと振り返り	全体のまとめと振り返りをする	学習した内容確認と課題発見	45分

《専門教育科目》

科目名	こどもと運動 I	科目ナンバリング	YY-S12023
担当者氏名	三宅 一郎	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 必修
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

演習科目である為理論と実践を結びつけながら進める。子どもの理解を深め実践能力をより高める意味で附属加古川幼稚園の子どもを観察をしたり接する機会を持つ。幼児期の発育発達段階に応じた運動遊びを理解し、正しい実践方法や援助方法の能力を養う。

《授業外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認の為にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《学習状況・理解度の確認》

毎時間の学習内容をノートに記録すると共に、課題についてまとめる。質問等は、ノートまたは毎時間の終了前時間に対応する。

《参考図書》

『運動発達の科学 ～幼児の運動発達を考える～』三宅一郎（大阪教育図書）『幼児の運動発達学』小林寛道（ミネルヴァ書房）『幼児の有酸素性能力の発達』吉澤茂弘著（杏林書院）

《備考》

乳幼児期の運動遊びの指導者として必要な知識や援助方法を身につけて欲しい。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-2子どもの心身の状態を把握する力	子ども達を理解し、それぞれの子どもに応じて対応できる能力を身につける。
◎ 2-2保育技術を身につける	発育発達レベルに応じた運動遊びを援助する。援助経験を繰り返し、適切な運動遊びの実践方法を習得する。
○ 3-4地域の子育て支援に貢献する力	乳幼児期の発育発達レベルを理解し、幅広い年代の子どもに応じることができる能力を養う。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	20
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	20
授業内課題	20
その他()	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する	学びたい内容	45分
2	移動系運動（1）	移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ	学習した内容確認と課題発見	45分
3	移動系運動（2）	移動系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際	学習した内容確認と課題発見	45分
4	操作系運動（1）	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ	学習した内容確認と課題発見	45分
5	操作系運動（2）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際①	学習した内容確認と課題発見	45分
6	操作系運動（3）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際②	学習した内容確認と課題発見	45分
7	非移動運動（1）	非移動運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ	学習した内容確認と課題発見	45分
8	非移動運動（2）	非移動運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際	学習した内容確認と課題発見	45分
9	対人ゲーム	対人におけるルール遊びの方法と実践	学習した内容確認と課題発見	45分
10	集団ゲーム（1）	集団におけるルール遊びの方法と実践①	学習した内容確認と課題発見	45分
11	集団ゲーム（2）	集団におけるルール遊びの方法と実践②	学習した内容確認と課題発見	45分
12	年代に応じた運動遊び（1）	3歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点	学習した内容確認と課題発見	45分
13	年代に応じた運動遊び（2）	4歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点	学習した内容確認と課題発見	45分
14	年代に応じた運動遊び（3）	5歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点	学習した内容確認と課題発見	45分
15	まとめと振り返り	全体のまとめと振り返りをする	学習した内容確認と課題発見	45分

《専門教育科目》

科目名	こどもと運動Ⅱ	科目ナンバリング	YY-S22024
担当者氏名	三宅 一郎	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ Ⅱ期

《授業の概要》

演習科目である為、理論と実践を結びつけながら進める。幼児の理解を深め実践能力をより高める意味で附属加古川幼稚園の子どもを観察をしたり幼児と接する機会を持つ。保育における幅広い運動遊びの実践内容を理解し、発育発達段階に応じた運動遊びを計画し実践する能力を養う。

《授業外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認の為にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《学習状況・理解度の確認》

毎時間の学習内容をノートに記録すると共に、課題についてまとめる。質問等は、ノートまたは毎時間の終了前時間に対応する。

《参考図書》

『運動発達の科学 ～幼児の運動発達を考える～』三宅一郎（大阪教育図書）『幼児の運動発達学』小林寛道（ミネルヴァ書房）『幼児の有酸素性能力の発達』吉澤茂弘著（杏林書院）

《備考》

保育者として、乳幼児期における運動遊びの必要な知識や援助方法を身につけて欲しい。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-2子どもの心身の状態を把握する力	子ども達を理解し、それぞれの子どもに応じて対応できる能力を身につける。
◎	2-2保育技術を身につける	発育発達レベルに応じた運動遊びを援助する。援助経験を繰り返し、適切な運動遊びの実践方法を習得する。
○	3-4地域の子育て支援に貢献する力	乳幼児期の発育発達レベルを理解し、幅広い年代の子どもに伝わる能力を養う。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	20
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	20
授業内課題	20
その他()	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する	学びたい内容	45分
2	移動系運動（1）	移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ	学習した内容確認と課題発見	45分
3	移動系運動（2）	移動系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際	学習した内容確認と課題発見	45分
4	操作系運動（1）	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ	学習した内容確認と課題発見	45分
5	操作系運動（2）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際①	学習した内容確認と課題発見	45分
6	操作系運動（3）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際②	学習した内容確認と課題発見	45分
7	非移動運動（1）	非移動運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ	学習した内容確認と課題発見	45分
8	非移動運動（2）	非移動運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際	学習した内容確認と課題発見	45分
9	対人ゲーム	対人におけるルール遊びの方法と実践	学習した内容確認と課題発見	45分
10	集団ゲーム（1）	集団におけるルール遊びの方法と実践①	学習した内容確認と課題発見	45分
11	集団ゲーム（2）	集団におけるルール遊びの方法と実践②	学習した内容確認と課題発見	45分
12	年代に応じた運動遊び（1）	3歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点	学習した内容確認と課題発見	45分
13	年代に応じた運動遊び（2）	4歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点	学習した内容確認と課題発見	45分
14	年代に応じた運動遊び（3）	5歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点	学習した内容確認と課題発見	45分
15	まとめと振り返り	全体のまとめと振り返りをする	学習した内容確認と課題発見	45分

《専門教育科目》

科目名	こどもと運動Ⅱ	科目ナンバリング	YY-S22024
担当者氏名	三宅 一郎	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ Ⅱ期

《授業の概要》

演習科目である為、理論と実践を結びつけながら進める。幼児の理解を深め実践能力をより高める意味で附属加古川幼稚園の子どもを観察をしたり幼児と接する機会を持つ。保育における幅広い運動遊びの実践内容を理解し、発育発達段階に応じた運動遊びを計画し実践する能力を養う。

《授業外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認の為にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《学習状況・理解度の確認》

毎時間の学習内容をノートに記録すると共に、課題についてまとめる。質問等は、ノートまたは毎時間の終了前時間に対応する。

《参考図書》

『運動発達の科学 ～幼児の運動発達を考える～』三宅一郎（大阪教育図書）『幼児の運動発達学』小林寛道（ミネルヴァ書房）『幼児の有酸素性能力の発達』吉澤茂弘著（杏林書院）

《備考》

保育者として、乳幼児期における運動遊びの必要な知識や援助方法を身につけて欲しい。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-2子どもの心身の状態を把握する力	子ども達を理解し、それぞれの子どもに応じて対応できる能力を身につける。
◎	2-2保育技術を身につける	発育発達レベルに応じた運動遊びを援助する。援助経験を繰り返し、適切な運動遊びの実践方法を習得する。
○	3-4地域の子育て支援に貢献する力	乳幼児期の発育発達レベルを理解し、幅広い年代の子どもに伝わる能力を養う。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	20
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	20
授業内課題	20
その他()	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する	学びたい内容	45分
2	移動系運動（1）	移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ	学習した内容確認と課題発見	45分
3	移動系運動（2）	移動系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際	学習した内容確認と課題発見	45分
4	操作系運動（1）	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ	学習した内容確認と課題発見	45分
5	操作系運動（2）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際①	学習した内容確認と課題発見	45分
6	操作系運動（3）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際②	学習した内容確認と課題発見	45分
7	非移動運動（1）	非移動運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ	学習した内容確認と課題発見	45分
8	非移動運動（2）	非移動運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際	学習した内容確認と課題発見	45分
9	対人ゲーム	対人におけるルール遊びの方法と実践	学習した内容確認と課題発見	45分
10	集団ゲーム（1）	集団におけるルール遊びの方法と実践①	学習した内容確認と課題発見	45分
11	集団ゲーム（2）	集団におけるルール遊びの方法と実践②	学習した内容確認と課題発見	45分
12	年代に応じた運動遊び（1）	3歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点	学習した内容確認と課題発見	45分
13	年代に応じた運動遊び（2）	4歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点	学習した内容確認と課題発見	45分
14	年代に応じた運動遊び（3）	5歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点	学習した内容確認と課題発見	45分
15	まとめと振り返り	全体のまとめと振り返りをする	学習した内容確認と課題発見	45分

《専門教育科目》

科目名	こどもと運動Ⅱ	科目ナンバリング	YY-S22024
担当者氏名	三宅 一郎	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ Ⅱ期

《授業の概要》

演習科目である為、理論と実践を結びつけながら進める。幼児の理解を深め実践能力をより高める意味で附属加古川幼稚園の子どもを観察をしたり幼児と接する機会を持つ。保育における幅広い運動遊びの実践内容を理解し、発育発達段階に応じた運動遊びを計画し実践する能力を養う。

《授業外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認の為にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《学習状況・理解度の確認》

毎時間の学習内容をノートに記録すると共に、課題についてまとめる。質問等は、ノートまたは毎時間の終了前時間に対応する。

《参考図書》

『運動発達の科学 ～幼児の運動発達を考える～』三宅一郎（大阪教育図書）『幼児の運動発達学』小林寛道（ミネルヴァ書房）『幼児の有酸素性能力の発達』吉澤茂弘著（杏林書院）

《備考》

乳幼児期の運動遊びの指導者として必要な知識や援助方法を身につけて欲しい。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-2子どもの心身の状態を把握する力	子ども達を理解し、それぞれの子どもに応じて対応できる能力を身につける。
◎	2-2保育技術を身につける	発育発達レベルに応じた運動遊びを援助する。援助経験を繰り返し、適切な運動遊びの実践方法を習得する。
○	3-4地域の子育て支援に貢献する力	乳幼児期の発育発達レベルを理解し、幅広い年代の子どもに応じることができる能力を養う。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	20
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	20
授業内課題	20
その他()	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する	学びたい内容	45分
2	移動系運動（1）	移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ	学習した内容確認と課題発見	45分
3	移動系運動（2）	移動系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際	学習した内容確認と課題発見	45分
4	操作系運動（1）	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ	学習した内容確認と課題発見	45分
5	操作系運動（2）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際①	学習した内容確認と課題発見	45分
6	操作系運動（3）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際②	学習した内容確認と課題発見	45分
7	非移動運動（1）	非移動運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ	学習した内容確認と課題発見	45分
8	非移動運動（2）	非移動運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際	学習した内容確認と課題発見	45分
9	対人ゲーム	対人におけるルール遊びの方法と実践	学習した内容確認と課題発見	45分
10	集団ゲーム（1）	集団におけるルール遊びの方法と実践①	学習した内容確認と課題発見	45分
11	集団ゲーム（2）	集団におけるルール遊びの方法と実践②	学習した内容確認と課題発見	45分
12	年代に応じた運動遊び（1）	3歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点	学習した内容確認と課題発見	45分
13	年代に応じた運動遊び（2）	4歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点	学習した内容確認と課題発見	45分
14	年代に応じた運動遊び（3）	5歳児における運動遊び指導の考え方と実践方法及び留意点	学習した内容確認と課題発見	45分
15	まとめと振り返り	全体のまとめと振り返りをする	学習した内容確認と課題発見	45分

《専門教育科目》

科目名	教育実習指導	科目ナンバリング	YJ-S24009
担当者氏名	磯野 久美子	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択
		開講年次・開講期	4 年 ・ I 期

《授業の概要》

自己の実習課題を整理して実習に取り組み、実習経験を通して保育者として有効に活かせるよう自己課題を見出すことを目的とします。これまで学習した関係科目の内容を総合的にまとめて理解するとともに、講義や実践を通して、子どもとかかわる仕事としての保育者の役割について理解し、教育実習生として必要な意識や態度、保育実践に携わる素地を培います。

《授業外学習》

- ・部分実習指導案、一日実習指導案の作成を行うこと。
- ・部分実習等に必要な準備をしておくこと。
- ・実習園の保育方針や保育内容を知っておくこと。

《テキスト》

『幼稚園教育実習の手引き』、『幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方』相馬和子・中田カヨ子[編]萌文書林 2018

《学習状況・理解度の確認》

・授業内課題として、学びの確認を行い、実習に向けての知識や技術を確実に身に付けていけるようにする。

《参考図書》

『幼稚園教育要領』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

《備考》

・本科目履修年度中に教育実習を行う予定であること。 ・実習に臨む態度や心構えを身に付ける観点から全授業に必ず出席のこと。 ・担当者は、幼稚園教諭として幼稚園勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-1幼児教育の方法を身につける	教育実習に必要な知識と心構えを学び、教育実習を通して、自己の子ども観、保育観を構築しながら、保育者として自己課題を見出す。
○ 2-2保育技術を身につける	教育実習に必要な保育技術を身に付け、子どもとの関わりや保育展開の中での的確に使えるようになる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	30
授業内課題	50
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育実習の意義と目的	授業の概要を知るとともに、教育実習の意義と目的について理解する。	『幼稚園教育実習の手引き』	45分
2	教育実習までの準備	教育実習前の準備やオリエンテーションの受け方について理解する。	『幼稚園教育実習の手引き』	45分
3	実習の流れと内容	幼稚園実習の流れと教育実習生としての留意点について理解する。	『幼稚園教育実習の手引き』	45分
4	指導案の作成と保育の展開①(部分実習の指導案)	部分実習の指導案を作成する。	部分実習指導案作成	90分
5	指導案の作成と保育の展開②(一日実習の指導案)	一日実習の指導案を作成する。	一日実習指導案作成	90分
6	指導案の作成と保育の展開③(保育の反省の仕方)	保育の振り返りと評価の方法について理解する。	『幼稚園教育実習の手引き』	45分
7	教育実習実習日誌、観察記録の書き方	実習日誌、観察記録の書き方を理解する。	『幼稚園教育実習の手引き』	45分
8	子どもの生活と幼稚園における保育	子どもの遊びや生活の現状と幼稚園における保育や保育者の役割について理解する。	『幼稚園教育実習の手引き』	45分
9	教育実習の留意点①(実習生としての留意点)	実習生としての責任と自己課題について最終確認をする。	『幼稚園教育実習の手引き』	45分
10	教育実習の留意点②(小テスト)	日々の保育活動における留意点や子どもへの対応について小テストを通して最終確認をする。	学びの振り返り	45分
11	教育実習の留意点③(自己課題の最終確認)	実習生としての責任と自己課題について最終確認をする。	自己課題の再確認	45分
12	実習終了後の振り返り①(グループ討議)	グループ討議を通して、教育実習を振り返る。	グループ討議	45分
13	実習終了後の振り返り②(実習報告書作成)	教育実習を振り返り、実習での学びと自己課題を見出す。	実習報告書作成	90分
14	実習終了後の振り返り③(実習報告会)	実習での学びと自己課題をまとめ、報告する。	実習報告と相互評価	90分
15	実習終了後の振り返り④(実習報告会)	実習での学びと自己課題をまとめ、報告する。	実習報告と相互評価	90分

《専門教育科目》

科目名	教育実習指導	科目ナンバリング	YJ-S24009
担当者氏名	磯野 久美子	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択
		開講年次・開講期	4 年 ・ I 期

《授業の概要》

自己の実習課題を整理して実習に取り組み、実習経験を通して保育者として有効に活かせるよう自己課題を見出すことを目的とします。これまで学習した関係科目の内容を総合的にまとめて理解するとともに、講義や実践を通して、子どもとかかわる仕事としての保育者の役割について理解し、教育実習生として必要な意識や態度、保育実践に携わる素地を培います。

《授業外学習》

- ・部分実習指導案、一日実習指導案の作成を行うこと。
- ・部分実習等に必要な準備をしておくこと。
- ・実習園の保育方針や保育内容を知っておくこと。

《テキスト》

『幼稚園教育実習の手引き』、『幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方』相馬和子・中田カヨ子[編]萌文書林 2018

《学習状況・理解度の確認》

・授業内課題として、学びの確認を行い、実習に向けての知識や技術を確実に身に付けていけるようにする。

《参考図書》

『幼稚園教育要領』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

《備考》

・本科目履修年度中に教育実習を行う予定であること。 ・実習に臨む態度や心構えを身に付ける観点から全授業に必ず出席のこと。 ・担当者は、幼稚園教諭として幼稚園勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-1幼児教育の方法を身につける	教育実習に必要な知識と心構えを学び、教育実習を通して、自己の子ども観、保育観を構築しながら、保育者として自己課題を見出す。
○ 2-2保育技術を身につける	教育実習に必要な保育技術を身に付け、子どもとの関わりや保育展開の中での的確に使えるようになる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	30
授業内課題	50
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育実習の意義と目的	授業の概要を知るとともに、教育実習の意義と目的について理解する。	『幼稚園教育実習の手引き』	45分
2	教育実習までの準備	教育実習前の準備やオリエンテーションの受け方について理解する。	『幼稚園教育実習の手引き』	45分
3	実習の流れと内容	幼稚園実習の流れと教育実習生としての留意点について理解する。	『幼稚園教育実習の手引き』	45分
4	指導案の作成と保育の展開①(部分実習の指導案)	部分実習の指導案を作成する。	部分実習指導案作成	90分
5	指導案の作成と保育の展開②(一日実習の指導案)	一日実習の指導案を作成する。	一日実習指導案作成	90分
6	指導案の作成と保育の展開③(保育の反省の仕方)	保育の振り返りと評価の方法について理解する。	『幼稚園教育実習の手引き』	45分
7	教育実習実習日誌、観察記録の書き方	実習日誌、観察記録の書き方を理解する。	『幼稚園教育実習の手引き』	45分
8	子どもの生活と幼稚園における保育	子どもの遊びや生活の現状と幼稚園における保育や保育者の役割について理解する。	『幼稚園教育実習の手引き』	45分
9	教育実習の留意点①(実習生としての留意点)	実習生としての責任と自己課題について最終確認をする。	『幼稚園教育実習の手引き』	45分
10	教育実習の留意点②(小テスト)	日々の保育活動における留意点や子どもへの対応について小テストを通して最終確認をする。	学びの振り返り	45分
11	教育実習の留意点③(自己課題の最終確認)	実習生としての責任と自己課題について最終確認をする。	自己課題の再確認	45分
12	実習終了後の振り返り①(グループ討議)	グループ討議を通して、教育実習を振り返る。	グループ討議	45分
13	実習終了後の振り返り②(実習報告書作成)	教育実習を振り返り、実習での学びと自己課題を見出す。	実習報告書作成	90分
14	実習終了後の振り返り③(実習報告会)	実習での学びと自己課題をまとめ、報告する。	実習報告と相互評価	90分
15	実習終了後の振り返り④(実習報告会)	実習での学びと自己課題をまとめ、報告する。	実習報告と相互評価	90分

《専門教育科目》

科目名	子育て支援地域活動		科目ナンバリング	YR-S22024
担当者氏名	澤田 真弓・田井 敦子		担当形態	共担
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選択
			開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

地域子育て支援活動での実践を中心に経験を深め、実践的知識や技術につながる素地を培うことを目的とします。授業では、子育て支援の理念や制度、歴史的経緯、子育て支援の現状を学び、子育て支援活動での実践と併せて、地域や保護者のニーズに応じた子育て支援のあり方を理解します。

《授業外学習》

・子育て支援に関する社会的現状を、様々な情報を元に理解しておくこと。
 ・子育て支援活動に参加する際には、子育て支援に関わる者としての自覚や使命感をもって臨むこと。

《テキスト》

適宜、資料を配布する。

《学習状況・理解度の確認》

・授業や子育て支援活動の参加後に提出された小レポートは、コメントを添えて返却し、学びの状況を確認する。 ・グループ単位での活動を主とするため、メンバーとの協動的な取り組みを評価する。

《参考図書》

《備考》

・担当者は、保育士・幼稚園教諭として勤務歴のある実務経験者である。
 ・実践活動に参加し、グループワーク、実習を行う。 Parenting Support (Practice)

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 3-4地域の子育て支援に貢献する力	地域子育て支援活動の観察や環境構成などの実践を通して、子育て支援の実践力を身に付ける。
○ 1-3子どもと環境の関係を理解する力	地域子育て支援の実践力の基礎となる様々な課題や地域の子育て支援拠点の取り組みについて理解する。
○ 2-4保護者の心情を理解し支援できる	個々の保護者への個別対応を経験し、保護者のニーズを踏まえた子育て支援について理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	
小テスト	
レポート	30
発表・実技	40
授業内課題	30
その他 ()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	子育て支援が求められる社会的背景	子育て支援が求められるようになった社会的背景や子育ての歴史について学ぶ。	配付資料の予習・復習	45分
2	子育て支援に関する制度・施策の展開	日本の子育て支援制度の変遷と現状について学ぶ。	配付資料の予習・復習	45分
3	保育者の専門性と子育て支援	子育て支援における子どもの最善の利益と保育者の倫理について学ぶ。	配付資料の予習・復習	45分
4	子育て支援活動への参加と学び	子育て支援活動への参加の仕方について学ぶ。	配付資料の予習・復習	45分
5	実践演習①	観察を通して子育て支援活動の実際を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
6	実践演習②	観察を通して子育て支援活動の実際を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
7	実践演習③	観察を通して子育て支援活動の実際を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
8	実践演習の振り返り①	子育て支援活動に参加して得た学びを整理、検証する。	活動の振り返りと次回の準備	45分
9	実践演習の振り返り②	子育て支援活動に参加して得た学びを整理、検証する。	活動の振り返りと次回の準備	45分
10	実践演習④	観察を通して子育て支援活動の実際を学ぶ。	活動の振り返り	45分
11	実践演習⑤	観察を通して子育て支援活動の実際を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
12	実践演習の振り返り③	子育て支援活動に参加して得た学びを整理、検証する。	実践演習の振り返り	45分
13	子育て支援の環境構成	演習を通して、子育て支援における環境の意義について知る。	環境構成の計画	60分
14	子育て支援の環境構成	演習を通して、子育て支援における環境の意義について知る。	実践演習の振り返り	60分
15	まとめ	授業の振り返りを行う。	レポート作成	120分

《専門教育科目》

科目名	発達障害児への支援			科目ナンバリング	YT-S23006
担当者氏名	平田 真二			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選択	開講年次・開講期
					3 年 ・ II 期

《授業の概要》

LD、ADHD、自閉症スペクトラム等の発達障害の子ども
の学校園での生活場面における困り感について理解するとともに
に、特性に応じた具体的な支援方法について演習を通して学
ぶ。演習では、疑似体験や支援ツール・指導計画の作成を行う
ことで、子どもの困り感に応じた支援を行うための実践力を身
につける。

《授業外学習》

・ 次回の授業内容に関連する書籍・資料等を自主的に読んで予習して
くこと。
・ グループワークには自分の考えを持って臨むことができるよう、事
前に各自で課題に対する考えをまとめておくこと。
・ 授業で使用した資料を使って復習し、知識と理解の定着を図るこ
と。

《テキスト》

適宜資料を配布

《学習状況・理解度の確認》

授業内課題、グループワーク、プレゼンテーションの内容から学習状況、理
解度を確認する。質問があれば、授業後やオフィスアワーで受け付け、理解
の定着を図る。

《参考図書》

①上野一彦・酒井幸子・中野圭子「ケース別発達障害のある子へのサ
ポート実例集 幼稚園・保育園編」ナツメ社, 2010 ②岩澤寿美子・西村
和久「気になる子の保育サポートブック」新星出版社, 2019

《備考》

グループワーク、支援計画の作成・プレゼンテーション等の演習を中心に進
める。科目担当者は、特別支援学校、小学校での通級指導教室担当者の勤務
歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 1-1子どもの発達を理解する力	自閉スペクトラム症、ADHD、LD等の発達障害の特性について正しく説明できる
○ 2-3多様な子どもの発達を支援できる	療育に関する正しい知識を持ち、発達障害のある子どもと家族への支援について具体的に考えることができる
○ 3-1多職種との連携ができる力	心理や作業療法など発達障害のある子どもへの支援について関連する職種の役割について理解する

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	20
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 支援の基本	本授業の目標と概要を理解し、学習内容と学習方法を確認する。基本的な支援のありかたについて考える。	授業資料を使って復習する	45分
2	学習障害 (LD)・発達性協調運動障害 (DCD) の理解と支援	疑似体験を通して、学習障害 (LD) や発達性協調運動障害 (DCD) の子どもが感じている困り感について理解し、支援方法について考える。	授業資料を使って復習する	45分
3	注意欠如・多動症 (ADHD) の理解と支援	疑似体験を通して、注意欠如・多動症 (ADHD) の子どもが感じている困り感について理解し、支援方法について考える。	授業資料を使って復習する	45分
4	自閉症スペクトラム (ASD) の理解と支援	疑似体験を通して、自閉症スペクトラム症 (ASD) の子どもが感じている困り感について理解し、支援方法について考える。	授業資料を使って復習する	45分
5	支援のための環境づくり・支援ツールの活用 (1)	「構造化」を中心とした環境調整による支援について学び、「スケジュールボード」「手順表」等の支援ツールの作成計画を立てる。	支援ツールを作成する	120分
6	気になる行動への支援 (1)	ケース別に気になる行動への具体的な支援方法について考える。	授業資料を使って復習する	45分
7	支援のための環境づくり・支援ツールの活用 (2)	作成した支援ツールのプレゼンテーションとそれに対する意見交換を行う	プレゼン準備	60分
8	気になる行動への支援 (2)	ケース別に気になる行動への具体的な支援方法について考える。	授業資料を使って復習する	120分
9	気になる行動への支援 (3)	ケース別に気になる行動への具体的な支援方法について考える。	授業資料を使って復習する	45分
10	気になる行動への支援 (4)	ケース別に気になる行動への具体的な支援方法について考える。	授業資料を使って復習する	45分
11	指導計画の作成①	事例を知り、グループごとに指導計画作成の計画を立てる	指導計画・支援ツール等の作成	60分
12	指導計画の作成②	指導計画・支援ツール等の作成	指導計画・支援ツール等の作成	60分
13	指導計画の作成③	各グループで作成した指導計画のプレゼンテーションとそれに対する意見交換を行う	プレゼン準備	45分
14	幼稚園の特別支援ルームの実践	ゲストティーチャーを招き、実際の現場での実践について学ぶ	授業資料を使って復習する	45分
15	学習のまとめ	これまで学習してきたことを再度整理し、発達障害児への支援について理解の定着を図る。学習確認テストを実施する。	授業内容の整理	60分

《専門教育科目》

科目名	発達障害児への支援			科目ナンバリング	YT-S23006
担当者氏名	平田 真二			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選択	開講年次・開講期
					3 年 ・ II 期

《授業の概要》

LD、ADHD、自閉症スペクトラム等の発達障害の子ども
の学校園での生活場面における困り感について理解するとともに、特性に応じた具体的な支援方法について演習を通して学ぶ。演習では、疑似体験や支援ツール・指導計画の作成を行うことで、子どもの困り感に応じた支援を行うための実践力を身につける。

《授業外学習》

・ 次回の授業内容に関連する書籍・資料等を自主的に読んで予習しておくこと。
・ グループワークには自分の考えを持って臨むことができるよう、事前に各自で課題に対する考えをまとめておくこと。
・ 授業で使用した資料を使って復習し、知識と理解の定着を図ること。

《テキスト》

適宜資料を配布

《学習状況・理解度の確認》

授業内課題、グループワーク、プレゼンテーションの内容から学習状況、理解度を確認する。質問があれば、授業後やオフィスアワーで受け付け、理解の定着を図る。

《参考図書》

①上野一彦・酒井幸子・中野圭子「ケース別発達障害のある子へのサポート実例集 幼稚園・保育園編」ナツメ社, 2010 ②岩澤寿美子・西村和久「気になる子の保育サポートブック」新星出版社, 2019

《備考》

グループワーク、支援計画の作成・プレゼンテーション等の演習を中心に進める。科目担当者は、特別支援学校、小学校での通級指導教室担当者の勤務歴のある実務経験者である。 Support for children with developmental disabilities

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 1-1子どもの発達を理解する力	自閉スペクトラム症、ADHD、LD等の発達障害の特性について正しく説明できる
○ 2-3多様な子どもの発達を支援できる	療育に関する正しい知識を持ち、発達障害のある子どもと家族への支援について具体的に考えることができる
○ 3-1多職種との連携ができる力	心理や作業療法など発達障害のある子どもへの支援について関連する職種の役割について理解する

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	20
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 支援の基本	本授業の目標と概要を理解し、学習内容と学習方法を確認する。基本的な支援のありかたについて考える。	授業資料を使って復習する	45分
2	学習障害 (LD)・発達性協調運動障害 (DCD)の理解と支援	疑似体験を通して、学習障害 (LD)や発達性協調運動障害 (DCD)の子どもが感じている困り感について理解し、支援方法について考える。	授業資料を使って復習する	45分
3	注意欠如・多動症 (ADHD)の理解と支援	疑似体験を通して、注意欠如・多動症 (ADHD)の子どもが感じている困り感について理解し、支援方法について考える。	授業資料を使って復習する	45分
4	自閉症スペクトラム (ASD)の理解と支援	疑似体験を通して、自閉症スペクトラム症 (ASD)の子どもが感じている困り感について理解し、支援方法について考える。	授業資料を使って復習する	45分
5	支援のための環境づくり・支援ツールの活用 (1)	「構造化」を中心とした環境調整による支援について学び、「スケジュールボード」「手順表」等の支援ツールの作成計画を立てる。	支援ツールを作成する	120分
6	気になる行動への支援 (1)	ケース別に気になる行動への具体的な支援方法について考える。	授業資料を使って復習する	45分
7	支援のための環境づくり・支援ツールの活用 (2)	作成した支援ツールのプレゼンテーションとそれに対する意見交換を行う	プレゼン準備	60分
8	気になる行動への支援 (2)	ケース別に気になる行動への具体的な支援方法について考える。	授業資料を使って復習する	120分
9	気になる行動への支援 (3)	ケース別に気になる行動への具体的な支援方法について考える。	授業資料を使って復習する	45分
10	気になる行動への支援 (4)	ケース別に気になる行動への具体的な支援方法について考える。	授業資料を使って復習する	45分
11	指導計画の作成①	事例を知り、グループごとに指導計画作成の計画を立てる	指導計画・支援ツール等の作成	60分
12	指導計画の作成②	指導計画・支援ツール等の作成	指導計画・支援ツール等の作成	60分
13	指導計画の作成③	各グループで作成した指導計画のプレゼンテーションとそれに対する意見交換を行う	プレゼン準備	45分
14	幼稚園の特別支援ルームの実践	ゲストティーチャーを招き、実際の現場での実践について学ぶ	授業資料を使って復習する	45分
15	学習のまとめ	これまで学習してきたことを再度整理し、発達障害児への支援について理解の定着を図る。学習確認テストを実施する。	授業内容の整理	60分

《専門教育科目》

科目名	幼児のための福祉教育Ⅱ			科目ナンバリング	YR-S23019
担当者氏名	田邊 哲雄			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選択	開講年次・開講期
					3 年 ・ II 期

《授業の概要》

少子高齢社会において、福祉教育は、「共に生きる社会」と「自立」とは何かを理解し、支え合いを実践する心を養うための教育である。「障害」を「生活の困難」という理解をもとに、友愛的共感を育むことがその目的である。先人の活動と現代の実態から共生社会の実現を考える。また幼児が福祉を理解するために感性を活用する理論を理解する。毎回の授業前半で基礎知識の講義を行い、後半は各自で調べ学習に取り組む。毎回調べた内容を記載した振り返りレポートの提出を求める。

《授業外学習》

講義のテーマに関する絵本やその他の視覚教材をWeb. 等で検索してみる。

《テキスト》

適宜、資料を配布する。

《学習状況・理解度の確認》

講義内で配布するプリントへの記入内容、グループワーク、プレゼンテーションの内容から学習状況、理解度を確認する。

《参考図書》

講義の中で、適宜、示す。

《備考》

ICT活用「オンデマンド型」「同時双方向型」で講義を実施する場合がある。グループワーク、プレゼンテーション等を実施する。担当者は幼稚園、児童養護施設、障害者支援施設、教育委員会等において勤務歴のある中級経験者（幼稚園教諭専修、保育士、社会福祉士）で

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-3子どもと環境の関係を理解する力	感性による福祉教育の理論と実践の理解
○	2-1幼児教育の方法を身につける	インクルーシブ教育の意義を理解する

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	50
発表・実技	10
授業内課題	40
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	ヤングケアラー	ヤングケアラーについて理解を深める。	福祉についてまとめる	45分
2	ユニバーサルデザイン	学内のユニバーサルデザインを調べる。	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
3	ワークシート①	自分らしさの発見、自己PR、困ったとき、家事分担、理想の家族、なりたい自分について理解を深める。	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
4	ワークシート②	夢中になったこと、理想の働き方、～年後の自分、自分らしい生き方について理解を深める。	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
5	介助犬について	介助犬について調べ学習を行う。	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
6	盲導犬	盲導犬協会の方（PR犬）とともに理解を深める。	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
7	社会体験とSDGs	キッズニアレポートからSDGs教育を考える	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
8	視覚障害について	視覚障害について理解を深める	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
9	視覚障害体験	ブラインドウォーク（白杖体験）	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
10	身体障害への理解	パワーベスト体験	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
11	クリスマス会①	対象を決めてクリスマス会を計画する	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
12	クリスマス会②	子ども役と職員役に分かれて実施	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
13	コミュニケーション	特性を持った子どもとの意思疎通について	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
14	発達障害について	児童発達支援センター職員の講和（発達障害への支援）	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
15	視覚優位	子どもにとって優しい掲示物とは	15回の講義内容を全般的に見つ	45分

《専門教育科目》

科目名	幼児のための福祉教育Ⅱ			科目ナンバリング	YR-S23019
担当者氏名	田邊 哲雄			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選択	開講年次・開講期
					3 年 ・ II 期

《授業の概要》

少子高齢社会において、福祉教育は、「共に生きる社会」と「自立」とは何かを理解し、支え合いを実践する心を養うための教育である。「障害」を「生活の困難」という理解をもとに、友愛的共感を育むことがその目的である。先人の活動と現代の実態から共生社会の実現を考える。また幼児が福祉を理解するために感性を活用する理論を理解する。毎回の授業前半で基礎知識の講義を行い、後半は各自で調べ学習に取り組む。毎回調べた内容を記載した振り返りレポートの提出を求める。

《授業外学習》

講義のテーマに関する絵本やその他の視覚教材をWeb. 等で検索してみる。

《テキスト》

適宜、資料を配布する。

《学習状況・理解度の確認》

講義内で配布するプリントへの記入内容、グループワーク、プレゼンテーションの内容から学習状況、理解度を確認する。

《参考図書》

講義の中で、適宜、示す。

《備考》

ICT活用「オンデマンド型」「同時双方向型」で講義を実施する場合がある。グループワーク、プレゼンテーション等を実施する。担当者は幼稚園、児童養護施設、障害者支援施設、教育委員会等において勤務歴のある中級経験者（幼稚園教諭専修、保育士、社会福祉士）で

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-3子どもと環境の関係を理解する力	感性による福祉教育の理論と実践の理解
○	2-1幼児教育の方法を身につける	インクルーシブ教育の意義を理解する

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	50
発表・実技	10
授業内課題	40
その他()	
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	ヤングケアラー	ヤングケアラーについて理解を深める。	福祉についてまとめる	45分
2	ユニバーサルデザイン	学内のユニバーサルデザインを調べる。	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
3	ワークシート①	自分らしさの発見、自己PR、困ったとき、家事分担、理想の家族、なりたい自分について理解を深める。	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
4	ワークシート②	夢中になったこと、理想の働き方、～年後の自分、自分らしい生き方について理解を深める。	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
5	介助犬について	介助犬について調べ学習を行う。	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
6	盲導犬	盲導犬協会の方（PR犬）とともに理解を深める。	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
7	社会体験とSDGs	キッズニアレポートからSDGs教育を考える	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
8	視覚障害について	視覚障害について理解を深める	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
9	視覚障害体験	ブラインドウォーク（白杖体験）	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
10	身体障害への理解	パワーベスト体験	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
11	クリスマス会①	対象を決めてクリスマス会を計画する	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
12	クリスマス会②	子ども役と職員役に分かれて実施	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
13	コミュニケーション	特性を持った子どもとの意思疎通について	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
14	発達障害について	児童発達支援センター職員の講和（発達障害への支援）	前回の講義内容をまとめ、次回	45分
15	視覚優位	子どもにとって優しい掲示物とは	15回の講義内容を全般的に見つ	45分